

私立大学図書館協会東地区部会

研究部報告書

2018年度

2019年3月

研究部担当理事校

成城大学図書館

目 次

《2018年度研究部活動報告》

1. 運営委員会	1
2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議	4
3. 研究会	4
4. 研修委員会	4
5. 研修会	6
6. 研究分科会	6
7. 研修分科会	6
8. オンデマンド研修	7

《2018年度研究分科会活動報告》

1. 和漢古典籍研究分科会	8
2. レファレンス研究分科会	11

《2018年度研修分科会活動報告》

2018年度研修分科会活動報告	14
2018年度研究会（交流会）発表要旨	16

《研究分科会刊行物一覧》

《2018年度研究分科会月例会について（報告）》

《2019年度研修分科会会員の更新結果（報告）》

《研究講演会》

《研究会（交流会）》

《研修会（地域研修）》

1. 2018年度地域研修の開催について	29
2. 2018年度地域研修について（参加者向け通知）	32
3. 図書館職員によるライティング支援実践講座（レジュメ）	34

《2018年度研修委員会報告》（研修委員長 和田 貴敏）

《オンデマンド研修》	
1. 「雑誌コース」のご案内	45
2. 「雑誌コース」実施要項	46
3. 「図書コース」のご案内	48
4. 「図書コース」実施要項	49
 《2018年度東地区部会研究部決算報告・監査報告》	 51
 《2019年度東地区部会研究部活動計画（案）》	 52
 《2019年度東地区部会研究部予算（案）》	 53
 《関係規程》	
研究部細則	54
研究分科会申し合わせ	56
研修委員会規則	59

《2018 年度研究部活動報告》

1. 運営委員会

運営委員（任期 2017 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）

委 員	平井 久美子	（東海大学）
	山田 和宏	（創価大学）
	花上 真一	（聖心女子大学）
	浅尾 千夏子	（慶應義塾大学）
	鈴木 努	（早稲田大学）（2017 年 4 月 1 日～2018 年 2 月 28 日）
	小川 渡	（早稲田大学）（2018 年 3 月 1 日～2018 年 11 月 7 日）
	松尾 亜子	（早稲田大学）（2018 年 11 月 19 日～2019 年 3 月 31 日）
	青木 みちる	（学習院大学）（2017 年 4 月 1 日～2017 年 6 月 9 日） （2018 年 4 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）
	水津 みはる	（学習院大学）（2017 年 6 月 10 日～2018 年 3 月 31 日）
	武林 輝暁	（玉川大学）
	佐々木 俊介	（桜美林大学）

研究部担当理事校 成城大学

第 1 回 2018 年 4 月 13 日（金） 15：00～17：00 於：成城大学

1. 2017 年度研究部決算報告について
2. 2018/2019 年度研究分科会、研修分科会会員の更新結果について
3. 研究分科会の休会・廃会について
4. 2018 年度研究部活動計画（案）及び予算（案）について
5. 2018 年度研修分科会特別助成金申請について
6. 2017 年度研究分科会、研修分科会の活動報告及び会計報告について
7. 2017 年度研究分科会刊行物一覧について
8. 2018 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
9. 2018 年度東地区部会研究講演会について
10. 2018 年度のオンデマンド研修について
11. 2018 年度研究部運営委員会日程及び協会スケジュールについて
12. 運営委員の交代について
13. その他

第 2 回 2018 年 5 月 11 日（金） 15：00～16：00 於：成城大学

1. 2018 年度第 1 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について
2. 研究分科会の休会について
3. 2018 年度研究分科会活動計画書及び予算計画書について
4. 特別助成金について
5. 2018 年度研究会（交流会）の開催計画案について
6. 2018 年度私立大学図書館協会スケジュールについて

7. 分科会ホームページについて
8. 特別助成金に関する研究分科会マニュアルの修正について
9. 2018 年度研究講演会について
10. 2018 年度オンデマンド研修の実施について
11. 2018 年度研修分科会について
12. その他
 - ① 運営委員名簿について

第 3 回 2018 年 6 月 8 日（金） 12：00～12：30 於：共立女子大学

1. 研究講演会最終打ち合わせ
2. オンデマンド研修の募集について
3. 地域研修の募集について
4. 研究会（交流会）の開催について
5. その他

第 4 回 2018 年 7 月 13 日（金） 15：00～17：00 於：学習院大学

1. オンデマンド研修「雑誌コース」の受講者について
2. 2018 年度研究会（交流会）について
3. 研究分科会会員異動について
4. 2018 年度研究分科会夏期合宿（集中研究会）の実施計画について
5. オンデマンド研修「図書コース」の募集について
6. 2018 年度地域研修の応募状況について
7. レファレンス研究分科会による学会での発表について
8. 研究部担当理事校の引継ぎ資料について
9. その他

第 5 回 2018 年 10 月 12 日（金） 14：30～17：00 於：桜美林大学

1. オンデマンド研修「図書コース」の受講者について
2. 2018 年度研究会（交流会）について
3. 第 2 回研究部運営委員・研究分科会代表者合同会議の開催について
4. 次期運営委員の推薦について
5. 地域研修の開催について
6. 今後の研修の在り方について、研修委員会からの提案
7. 2019 年度の研究講演会について
8. 和漢古典籍研究分科会の夏期研究合宿について
9. 研究部引継ぎ資料について
10. その他
 - ① 2018 年度研修委員について

第 6 回 2018 年 11 月 30 日（金） 11：00～11：30 於：東海大学

1. 2018 年度第 2 回運営委員・研究分科会代表者合同会議について

2. 2018 年度研究分科会夏期集中研究会の実施報告について
3. 次期研究部運営委員について
4. 運営委員の交代について
5. レファレンス研究分科会によるアンケートの実施について
6. 2018 年度研究会（交流会）の運営について
7. 2018 年度地域研修の実施報告について
8. 2018 年度オンデマンド研修「雑誌コース」のアンケート結果について
9. 2019 年度研究講演会のテーマについて
10. その他
 - ① 2018 年度研修委員会名簿の更新について
 - ② 2018 年度第 7 回運営委員会の会場について

第 7 回 2018 年 12 月 14 日（金） 15：00～17：00 於：早稲田大学

1. 2018 年度研究会（交流会）アンケート結果について
2. 2018 年度研究部予算の執行状況について
3. 2019 年度研究部活動計画（案）について
4. 2019 年度研究部予算（案）について
5. 次期研究部運営委員について
6. 2019 年度研修分科会会員募集について
7. 2019 年度研究講演会について
8. 2019 年度研修会（首都圏開催）について
9. 2019 年度オンデマンド研修について
10. レファレンス研究分科会によるアンケートの実施について
11. その他
 - ① 研究部報告書 2018 年度の件
 - ② 「図書館員のための HTML・PHP 入門、IAAL 講習会第 3 回」の協賛について

第 8 回 2019 年 3 月 8 日（金） 14：00～17：00 於：成城大学

1. 次期運営委員及び研修委員について
2. 2018 年度研究部活動報告及び研究部中間決算について
3. 2019 年度研究部活動計画（案）及び研究部予算（案）について
4. 2018 年度研修分科会活動報告及び会計報告
5. 2018 年度オンデマンド研修「図書コース」のアンケート結果について
6. 2019 年度研修分科会の募集状況について
7. 研究部担当理事校の引継ぎについて
8. 更新担当理事校の引継ぎについて
9. 月例担当理事校の引継ぎについて
10. 研究分科会マニュアル 2019 年度版（案）について
11. 研修委員会の活動について
12. 役員会の報告について
 - ① 協会関係報告

② 東地区部会関係報告

13. その他

2. 運営委員・研究分科会代表者合同会議

第1回 2018年5月11日(金) 16:00～17:00 於:成城大学

1. 研究分科会の休会について
2. 2018年度研究部活動計画(案)及び予算(案)について
3. 2018年度研究分科会活動計画書及び予算計画書について
4. 特別助成金について
5. 2018年度研究会(交流会)の開催計画案について
6. 研究分科会マニュアル2018年度版について
7. 研究分科会関連業務の分担について
8. 2018年度私立大学図書館協会スケジュールについて
9. 2018年度研究分科会代表者名簿について
10. その他

第2回 2018年11月30日(金) 11:30～12:00 於:東海大学

1. 2018年度研究会(交流会)について
2. 2018年度研究分科会夏期集中研究会の実施報告について
3. 次期研究部運営委員について
4. 運営委員の交代について
5. レファレンス研究分科会によるアンケートの実施について
6. その他

3. 研究会

2018年度研究会(交流会)

日時 2018年11月30日(金) 13:30～17:00

会場 東海大学高輪キャンパス 1201教室

参加者 33大学、47名

報告 1) 研究分科会中間報告

① 和漢古典籍研究分科会

② レファレンス研究分科会

2) 研修分科会2018年度活動報告

講演 RDAと目録の書誌的宇宙

講師 大学図書館支援機構 副理事長 高野 真理子

4. 研修委員会

研修委員(任期2018年4月1日～2020年3月31日)

委員長 和田 貴敏 (中央大学)

副委員長 岡田 将彦 (慶應義塾大学)

委員 桑垣 孝平 (早稲田大学)

土田 大輔 (明治大学)
吉水 拓哉 (立正大学)
粕川 悠介 (成城大学) 事務局 (2017 年 4 月 1 日～2018 年 6 月 30 日)
吉田 博貴 (成城大学) 事務局 (2018 年 7 月 1 日～2019 年 3 月 31 日)
アドバイザー 渡邊 幸弘 (早稲田大学)

第 1 回 2018 年 4 月 18 日 (水) 14:30～16:30 於: 中央大学

1. 私立大学図書館協会東地区部会の研修全体概要と研修委員会の任務について
2. 地域研修の概要について
3. 今後の課題とスケジュールについて
4. その他

第 2 回 2018 年 5 月 16 日 (水) 14:30～16:30 於: 明治大学

1. 地域研修の概要確認について
2. 地域研修の告知と募集方法について
3. 今後の委員会スケジュールについて
4. その他

第 3 回 2018 年 6 月 18 日 (月) 14:30～16:30 於: 立正大学

1. 開催案内通知の確認について
2. 事前課題について
3. 募集関連のスケジュールについて
4. その他

第 4 回 2018 年 7 月 19 日 (木) 14:30～16:30 於: 慶應義塾大学

1. 地域研修の応募状況について
2. 事前アンケート、参考図書について
3. 研修当日の流れについて
4. 研修実施後のアンケートについて
5. 受講者への連絡について
6. 今後のスケジュール確認

第 5 回 2018 年 9 月 20 日 (木) 14:30～16:30 於: 成城大学

1. 地域研修について
2. 今後の研修会について
3. 2019 年度の研修会 (首都圏) について
4. その他

第 6 回 2018 年 11 月 15 日 (木) 14:30～16:30 於: 早稲田大学

1. 地域研修の振り返りについて
2. 次年度研修会の会場・日程について

3. 次年度研修会のテーマ・実施方法について
4. その他

第7回 2018年12月17日(月) 14:30～16:30 於:慶應義塾大学

1. 次年度研修会の会場見学
2. 会場使用料について
3. 研修会の日程について
4. 次年度研修会のテーマ・実施方法について
5. その他

第8回 2019年3月20日(水) 14:30～16:30 於:成城大学

1. 2018年度研修委員会活動報告及び事務局交代について
2. 次年度研修会について(テーマ・講師・実施方法など)
3. その他

5. 研修会

2018年度地域研修

日時 2018年10月19日(金) 11:00～17:00

会場 北星学園大学 第5会議室

参加者 22大学、30名

テーマ 図書館職員によるライティング支援実践講座

講師 青山学院大学教育人間科学部教育学科 教授 杉谷 祐美子

青山学院大学アカデミックライティングセンター 助手 小林 至道

6. 研究分科会

以下の2研究分科会が月例研究会や夏期研究合宿等の活動を実施した。

(2018年4月1日～2019年3月31日)

- ① 和漢古典籍研究分科会
- ② レファレンス研究分科会

休会:分類研究分科会

西洋古版本研究分科会

パブリック・サービス研究分科会

廃会:企画広報研究分科会

研究分科会更新担当理事校 創価大学

研究分科会月例担当理事校 聖心女子大学

7. 研修分科会

第1回 2018年5月31日(木) 於:成城大学

第2回 2018年7月5日(木) 於:神田外語大学

- 第3回 2018年8月2日(木) 夏季見学ツアー
① 国立公文書館
② 国立映画アーカイブ
③ アドミュージアム東京
- 第4回 2018年10月4日(木) 於：国際基督教大学
- 第5回 2018年11月8日(木) 於：駒澤大学
- 第6回 2018年12月13日(木) 於：立正大学

8. オンデマンド研修

①「雑誌コース」の開講

募集期間：2018年6月18日(月)～7月7日(土)

実施期間：2018年7月24日(火)～10月22日(月)

受講者数：31名(うち30名修了)

②「図書コース」の開講

募集期間：2018年9月18日(火)～10月6日(土)

実施期間：2018年11月1日(木)～2019年1月30日(水)

受講者数：25名(うち23名修了)

以上

《2018 年度研究分科会活動報告》

1. 和漢古典籍研究分科会

代表者：松尾 蘭（立正大学）

会員数：4 名、講師 1 名（2019 年 3 月現在）

会 員：松尾 蘭（立正大学）
 山中 浩子（日本体育大学）
 高橋 良政講師（元日本大学）
 小此木 敏明（立正大学）
 ほか 1 名

年会費：0 円

例会開催回数：10 回（夏期集中研究会含む）

延べ参加者数：55 名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/kotenseki/>

活動

（1）基本テーマ

日本や中国・朝鮮半島などで刊行された古典籍資料について、大学図書館職員として必要な書誌学の基礎知識・書誌作成方法の習得を目指す。会員所属図書館蔵の和漢古典籍を使い、情報源に対する的確な理解、装訂に関する知識、紙質や字様・分類についての歴史、刊印修の分別などと共に、書誌事項を如何に適切に表記するかを演習形式で学ぶ。

（2）活動の概要

- ・会場校が所蔵する古典籍資料について、講師の指導を受けながら調書を作成した。
- ・各館において実践可能な補修の技術を学び、各館で抱える補修に関する疑問点や問題について共有した。
- ・展示内容の組み立て方や展示用器材作成についての講義、施設見学を行い、和漢古典籍資料の展示方法を学んだ。

資料

（1）月例会テーマ

第 1 回月例会

日 程：2018 年 4 月 19 日（木）

会 場：立正大学古書資料館

参加者：5 名

- ・会員自己紹介、分科会概要の説明、活動方針決定
- ・役員選出及び月例会日程の設定
- ・調書の用語説明（高橋講師より）

第2回月例会

日 程：2018年5月10日(木)

場 所：立正大学古書資料館

参加者：5名

- ・ 会員自己紹介、分科会概要の説明、活動方針決定
- ・ 調書作成

第3回月例会

日 程：2018年6月14日(木)

場 所：立正大学古書資料館

参加者：5名

- ・ 代表者会議報告
- ・ 夏期集中研究会について
- ・ 調書作成

第4回月例会

日 程：2018年7月12日(木)

場 所：立正大学古書資料館

参加者：5名

- ・ 夏期集中研究会について
- ・ 調書作成

夏期集中研究会

日 程：2018年9月25日(火)

場 所：中央大学図書館

参加者：11名（非会員参加7名含む）

- ・ 資料保存実習
- ・ 講演「各館にて実践可能な補修」蜂谷伊代氏、高田かおる氏

（所属：株式会社資料保存器材）

日 程：2018年9月27日(木)

場 所：印刷博物館・東洋文庫

参加者：4名

- ・ 活版印刷体験
- ・ 印刷博物館見学
- ・ 講演「古典籍資料展示の組み立て方、展示方法について
-図書館展示コンサルティング-」篠木由喜氏（所属：東洋文庫展示普及部）
- ・ 東洋文庫見学

第5回月例会

日 程：2018年10月11日(木)

場 所：立正大学古書資料館

参加者：5名

- ・中間報告について
- ・調書作成

第6回月例会

日 程：2018年11月8日(木)

場 所：中央大学図書館

参加者：5名

- ・中間報告について
- ・調書作成
- ・図書館見学

第7回月例会

日 程：2018年12月20日(木)

場 所：日本体育大学図書館

参加者：5名

- ・代表者会議報告
- ・研究テーマ検討
- ・調書作成
- ・図書館見学

第8回月例会

日 程：2019年1月10日(木)

場 所：立正大学古書資料館

参加者：5名

- ・研究テーマ検討
- ・調書作成

第9回月例会

日 程：2019年3月14日(木)

場 所：中央大学図書館

参加者：5名

- ・研究テーマ検討
- ・調書作成

(2) 刊行物及び事業

なし

2. レファレンス研究分科会

代表者：藤本 英一（創価大学）

会員数：3名（4月）→4名（7月）

会 員：長谷川 敦史（早稲田大学）

鈴木 茉莉奈（東京家政大学）

鈴木 学（日本女子大学）

藤本 英一（創価大学）

年会費：なし

例会開催回数：12回（内訳：月例会12回，夏期集中研究会1回 ※8月例会を兼ねて開催）

延べ参加者数：40名

研究分科会ホームページ URL：<http://www.jaspul.org/pre/e-kenkyu/reference/>

活動

1) 基本テーマ

「利用者から見たレファレンスサービスの位置づけについて——卒業論文執筆直後の学部学生の経験を基に」

大学図書館のレファレンスサービスは、情報通信環境の進展や整備によって、その量と質の両面において大きな変化がおきている。また、図書館における学修支援環境の整備が進む中、図書館の従来からの人的支援であるレファレンスサービスが、情報・調査を必要とする利用者の情報行動の具体的な場面において、どのように認知され、課題の解決に貢献しているか、「学部学生」から見たレファレンスサービスの位置づけを明らかにする。

2) 活動の概要

- 4月から8月までの5ヶ月間は、レファレンスサービスに関する文献の精読，例会での精読結果の発表，ディスカッションを行い，レファレンスサービスの概念，理論，現状について知識を共有した。
- 夏季集中研究会，10月と11月の例会では，各自の問題意識を発表，共有して，研究テーマの設定及び研究課題の検討を行った。その結果，卒業論文執筆時の情報行動を調査するための「質問紙調査」及び「インタビュー調査（半構造化インタビュー）」を実施することを決定した。
- 12月と翌2019年1月の例会では，「質問紙調査」及び「インタビュー調査」の質問項目を検討し，その結果，卒業論文を書く場面で，必要な文献や情報の収集に困難を感じた学部学生を仮定に，質問項目を以下の2つに絞り込んだ。
 - ① 図書館の利用について
 - ② 卒業論文執筆にあたって困難と感じたことについて

< 質問紙調査について >

【調査対象】専攻分野の異なる卒業論文執筆終了直後の学部学生

【回答期間】2019年1月30日（水）～3月31日（日）

【その他】分科会会員所属機関の教員を介して、卒業論文執筆を指導している学生に対して依頼を行った。

<インタビュー調査について>

【実施期間】2019年3月

インタビュー調査（半構造化インタビュー）は、質問紙調査回答者の中から2～6名に対して実施する。インタビュアーは分科会会員2名を原則とし、うち1名は調査対象者（インタビューイ）が所属する大学の会員が担当する。1人に対して60～90分を目安とする。

資料

1) 月例会テーマ

開催日	テーマ	会場
5/8（火）	・会員同士の顔合わせと役割分担 ・2年間の大まかな流れの確認 ・各自の研究したいテーマについて ・スケジュールと課題の設定	早稲田大学中央図書館
5/28（月）	・文献精読結果の発表，ディスカッション 竹之内禎『情報サービス論』（学文社，2013） ・図書館見学（創価大学中央図書館） ・施設見学（創価大学中央教育棟SPACE）	創価大学中央図書館
6/27（水）	・文献精読結果の発表，ディスカッション 山口真也ほか『情報サービス論』（ミネルヴァ書房，2018） ・図書館見学（東京家政大学板橋図書館）	東京家政大学板橋図書館
7/25（水）	・文献精読結果の発表，ディスカッション 山口真也ほか『情報サービス論』（ミネルヴァ書房，2018） ・夏期集中研究会実施要領決定	早稲田大学中央図書館
9/10（月）	夏期集中研究会 ・文献精読結果の発表，ディスカッション 山口真也ほか『情報サービス論』（ミネルヴァ書房，2018） ・研究課題の検討	創価大学中央図書館
9/19（月）	・研究課題の決定 ・研究手法の検討	東京家政大学板橋図書館
10/10（水）	・研究課題の再設定 ・質問紙調査について検討 ・図書館見学（早稲田大学中央図書館）	早稲田大学中央図書館

11/7（水）	・質問紙調査実施方法と実施時期の確定 ・研究計画書の作成 ・図書館見学（東京都市大学世田谷キャンパス図書館）	東京都市大学世田谷キャンパス図書館
11/30（金）	・私立大学図書館協会東地区部会 2018 年度研究会（交流会）「研究分科会活動中間報告」	東海大学高輪キャンパス
12/5（水）	・質問紙調査項目の検討，決定 ・今後の研究，調査スケジュールの検討	早稲田大学中央図書館
1/23（水）	・研究計画書の再検討，修正 ・質問紙調査項目の再検討，修正	早稲田大学国際会議場 共同研究室
2/13（水）	・質問紙調査 回答状況の確認 ・調査スケジュールの再検討	創価大学中央図書館
3/4（月）	・質問紙調査 回答状況の確認 ・インタビュー調査 インタビューマニュアルの作成 ・インタビュー対象者の決定	早稲田大学国際会議場 共同研究室

2) 刊行物及び事業

特になし。

《2018 年度研修分科会活動報告》

代表者：新井 和之（研究部担当理事校：成城大学）

会員数：13 名

会 員：安達 圭子（法政大学） 大田 隆介（国際基督教大学）
大坪 敬之（東京薬科大学） 翁 美恵（立正大学）
柏木 綾（学習院大学） 五所 法子（和光大学）
小林 絵美（獨協大学） 鶴岡 あかね（駒澤大学）
寺師 香織（実践女子大学・実践女子大学短期大学部）
野田 唯志（立正大学） 平口 悠希乃（専修大学）
堀池 奈津子（関東学院大学） 吉野 晋太郎（神田外語大学）

年会費：3,000 円

例会開催回数：6 回

述べ参加者数：71 名

研修分科会ホームページ URL：<http://jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/index.html>

活動

1) 基本テーマ

専任の大学図書館職員に求められる基礎知識を学び、自ら探求する。

研修テーマは「マネジメント力」と「図書館のパフォーマンス向上」。

アウトソーシング化が進む中で、図書館職員として現状を多角的に分析、評価して業務を遂行する能力が必要とされている。委託外注や電子化、学術情報流通、利用者サービス等について、幅広い視点から大学図書館の現状について理解を深める。

2) 活動の概要

研修は NP0 法人大学図書館支援機構の企画・運営で行い、研究部担当理事校が運営を管理する。各回ともテーマに基づいた事前学習・講演・グループ討議等を実施した。

資料

1) 月例会テーマ

第 1 回 2018 年 5 月 31 日（木） 成城大学図書館

講演：大学図書館の可能性

講師 立教大学兼任講師 牛崎 進

グループワーク：今、大学図書館の課題は？

見学：成城大学図書館

第 2 回 2018 年 7 月 5 日（木） 神田外語大学附属図書館

課題：自館のユニバーサル・デザイン事例調査および発表資料作成

講演：図書館のブランド構築とパブリック・リレーションズ

講師 株式会社トランスヒューマン 渡邊 崇

発表：各大学のユニバーサル・デザイン事例発表
グループワーク：ユニバーサル・デザイン考
見学：神田外語大学附属図書館

第3回 2018年8月2日（木） 夏季見学ツアー

テーマ：資料の利用・保存とデジタルアーカイブを考える
見学先：国立公文書館、国立映画アーカイブ、アドミュージアム東京

第4回 2018年10月4日（木） 国際基督教大学図書館オスマー館

課題：自館の雑誌受入種数と ILL 利用件数、機関リポジトリの開始年と登録状況の調査
講演：機関リポジトリを知る
講師 東京歯科大学図書館 阿部 潤也
講演：ILL のこれまでとこれから
講師 横浜国立大学附属図書館 中山 昌也
見学：国際基督教大学図書館

第5回 2018年11月8日（木） 駒澤大学図書館

課題：電子書籍に関する課題図書、論文を読む
講演：本当に使われる電子図書館とは－3つの電子書籍サービスを通じて考える－
講師 株式会社紀伊國屋書店 ICT 営業本部電子書籍営業部 西田 和之
講演：電子書籍の最新動向～電子コンテンツ活用による新しい教育・学修環境のご提案～
講師 丸善雄松堂株式会社 電子コンテンツ営業推進部 川口 達也
見学：駒澤大学図書館

第6回 2018年12月13日（木） 立正大学品川キャンパス

課題：自館のレファレンス事例調査
講演：レファレンスと学修支援
講師 元近畿大学図書館、IAAL 研修委員 寺尾 隆
発表：各館のレファレンス事例発表
見学：立正大学図書館、古書資料館

2018 年度研究会（交流会）

2018 年 11 月 30 日（金） 東海大学高輪キャンパス 1201 教室
報告者：国際基督教大学 大田 隆介、 学習院大学 柏木 綾、
獨協大学 小林 絵美、 駒澤大学 鶴岡 あかね、
神田外語大学 吉野 晋太郎

2) 刊行物及び事業

共同制作：2018 年度活動報告（PDF）
<http://jaspul.org/pre/e-kenkyu/el-ken-b/index.html>

2018 年度研究会（交流会） 発表要旨

研修分科会

学習院大学法学部・

経済学部図書センター 柏木 綾

獨協大学図書館 小林 絵美

神田外語大学附属図書館 吉野晋太郎

駒澤大学図書館 鶴岡あかね

国際基督教大学図書館 大田 隆介

はじめに

研修分科会は、大学図書館をめぐる様々な話題をテーマとし、大学図書館の現状、課題について参加者がともに学び、考えていく研修である。活動は月 1 回、全 6 回の各回テーマに沿った事前課題に取り組み、当日は講演を聴講し、グループ討議を行った。併せて会場校の図書館見学を実施した。

また、本研修は現場で活躍し、変化、成長し続けられる人になることを目標に掲げている。座学メインではなく、各メンバーが積極的に発言し、主体的で能動的な学習者としてプログラムに取り組んだ。

参加した 13 名の担当業務は多岐に渡っていたが、図書館に配属されて比較的年数が浅いメンバーが多く、同程度の知識をもって研修を受けていたため、グループワークや講演の聴講を通じて、各大学図書館に共通する課題を共有し、解決の糸口を探っていくことができた。

第 1 回：「大学図書館の可能性」

開催日時：2018 年 5 月 31 日（木）13 時～17 時

場 所：成城大学図書館

ワークショップ「今、大学図書館の課題は？」

第 1 回のテーマ「大学図書館の可能性」を念頭に、現在、各大学図書館で抱えている課題を日常担当業務別、以下の 4 グループに分かれて出し合

い、共通する内容について折り合わせを行った。

A グループ：選書・庶務関連業務

B グループ：整理（目録・発注）業務

C グループ：ILL・パブリックサービス業務

D グループ：閲覧・レファレンスサービス業務

グループ毎の発表では、勤務する大学は異なっても、各図書館に共通する課題が多くあることがわかった。

以下に主な課題を記載する。

- 来館者・貸出冊数減少に伴う利用者ニーズの不透明さ
- 図書館サービスの広報
- 学修支援推進のための教員との連携
- 多様な利用者への対応不足（施設面、運用面）
- 減少する予算の振り分け
- 資料の電子化に伴う整備

講演「大学図書館の可能性」

（立教大学兼任講師 牛崎 進氏）

大学が抱えている少子化、大学法人数の増加による学生獲得のための競争、教育の質保証、財政改革といった課題、予算の削減、専任職員数の減少、業務委託化といった大学図書館をめぐる環境・課題を踏まえた上で、大学図書館間の連携の必要性という、今後の大学図書館の可能性について講演を伺った。「昔は良かった」と振り返るのではなく、「今が一番」という見地から、図書館員

の広い可能性に期待しているという熱いメッセージのこもった講演であった。

まとめ

第1回目は今後の分科会に参加する上での心構えの確認ができた回となった。大学図書館をめぐる具体的な課題共有に加え、問題意識を持ち、自ら解決する能動的な姿勢の大切さについて、共通の理解を深めた。また、講演を伺い、各大学と図書館は学生を奪い合うライバルという観点だけでなく、協力しあうことで共通する課題を解決してゆくよい仲間となれるのではないかと、というのが第1回だけでなく、本分科会全体のテーマであり、参加意義であるという気づきを得た。

第2回：「図書館の広報」

開催日時：2018年7月5日（木）13時～17時

場 所：神田外語大学附属図書館

Co-working space

講演「図書館のブランド構築とパブリック・レレーションズ」 （株式会社トラストヒューマン代表 渡邊 崇氏）

学生側から見た大学図書館と図書館司書から見た大学図書館では大きな差があり、魅力的なコンテンツがあっても、利用者にはその価値が理解されづらい。どのようにすれば大学図書館が持っている価値が理解されるのか。これからの大学図書館の情報発信のあり方について、質問や議論も含めた講演であった。印象的だったことは、以下の5点である。

- ① 混同しやすい、マーケティング、アドバタイジング、PR、ブランディングの違い
→ブランディングは相手に自分のイメージを持ってもらう努力ということ等を学んだ。
- ② PRを行う場合に大切なこと
誰に（ターゲット）何を（伝えるべき内容）どのように（どのような表現・メッセージ）で伝えるか。

- ③ 利用者が「気づく」表現とメッセージの重要性
- ④ あれもこれもという親切心では結果何も伝わらない恐れがあること
- ⑤ 一瞬でわかる、目に飛び込んでくるような効果的なピクトグラム

ワークショップ「ユニバーサルデザイン考」

各大学図書館のユニバーサルデザインの事例について4分で発表し、意見交換を行った。設備面等を考慮して、建物のできた順に発表した。

13 もの大学図書館のユニバーサルデザインについての工夫やサービスを一度に聴くことができ、有意義であった。挙げられた事例の一部は以下の通り。

- 車椅子用閲覧席や、対面朗読室・対面朗読サービス、拡大読書器
- 筆談対応用のメモパッド・ホワイトボード
- 分かりやすいイラストによる館内マップの配布
- フロアの工夫：色によるゾーニングや矢印案内
- 館内掲示物の工夫：ピクトグラムやフォント、色の統一や、日本語・英語の併記

まとめ

ユニバーサルデザインとは、バリアフリーとは異なり、万人にとって利用しやすいことを目的としている。しかし、「みんなにとって使いやすい」という視点にこだわればこだわるほど使われないツールになる恐れもあることに注意をしなければならない。

また、ユニバーサルデザインに必要なものは、「多様性」の捉え方で、「多様性」×「大学図書館」＝どのような価値を生み出したいのかを踏まえた上での施策が必要である。

神田外語大学図書館見学

ユニバーサルデザインについて考えた後で、素

晴らしい事例を見学することができたのでここに紹介したい。

① サインや掲示の充実

禁止事項は極力示したくないとのことで、表現方法を工夫していた。フォントが揃えられ、統一感があり、分かりやすい。

② 採光の工夫や、無垢のフロア、スタイリッシュな椅子、館内の木による居心地のよい空間

③ 手作りうちわやブランケットの貸し出し、スマートフォン充電スタンド設置

各自が温度調整できる工夫もユニバーサルデザインといえる。学生ニーズの高い充電可能な電気スタンドの設置など、結果的に図書館利用者の増加につながる取組みである。

その他の施設見学

自立学習スペース「MULC（マルク）：Multilingual Communication Center」と「SALC（サルク）：Self-Access Learning Center」を見学した。スケールの大きさ、まるでテーマパークのようなワクワクする空間、生き生きと勉学に励む学生の姿を見て、会員から感嘆の声があがった。

第3回：「資料の利用・保存とデジタルアーカイブを考える」

開催日時：2018年8月2日（木）10時～17時
場所：国立公文書館（竹橋）、国立映画アーカイブ（京橋）、アドミュージアム東京（新橋）

テーマ

第3回は大学図書館を離れ、業務が隣接するMLAK（博物館・美術館（M）、図書館（L）、文書館（A）、公民館（K））における、資料の保存方法と公開の工夫、並びにデジタル化の実際を見学した。

国立公文書館

それまで各省独自のやり方で保存されていた

公文書等の散逸を防ぎ、それらを閲覧・展示への利用、また調査研究を目的として1971年に設置された国立機関である。

和漢の古典籍・古文書、江戸幕府の記録など約49万冊を誇る内閣文庫がある。それらの原本を手にとって閲覧できる。

最終稿だけでなく、それに至った経緯も保存するため途中作成された資料も全て保存されている。なお、デジタルアーカイブ化が進んでおり、公式Webサイトから資料を閲覧することが可能である。

2011年に施行された「公文書管理法」により、統一的な管理ルールや管理状況の報告などが決められたが、外務省を始め独自に公文書館の役割を持つ行政機関の資料は保管されていない。

国立映画アーカイブ

2018年6番目の国立美術館として設立、「映画の保存公開」、「教育」、「国際連携」の3つの機能により映画文化の振興を図っている。

国内外問わず、残存フィルム作品を計画的に収集。図書、ポスター、パンフレット、映画で使った小道具なども収集している。国内唯一で70mmフィルムでの上映が可能である。2018年10月には、「2001年宇宙の旅」が70mmフィルムで上映、当時の環境を再現するイベントが行われた。

フィルムになっていない現代の作品をどのようにに保存するかが課題となっている。

アドミュージアム東京

（株）電通4代目社長吉田秀雄氏の遺志を継承する目的で電通の出捐により創設、2011年に公益財団法人として再発足した。設立趣意書には、広告とマーケティングに関する分野の振興を図るとともに、その研究を奨励助成し、一般に広告に関する理論や技術の向上普及に努め、わが国経済、産業、文化の発展に寄与するため、とある。

江戸時代から現代に至る日本広告の歴史を企画展示にて紹介しており、約30万点を所蔵して

いる。また 25,000 冊の専門図書館が併設されているレファレンス対応もあり無料で利用可能である。

昨年のリニューアルオープンを経て、現業ユーザーの利用のみならず設立趣旨にもある広く一般利用を促すことが課題となっている。

まとめ

それぞれの資料保存方法を学べた。国立公文書館では資料の保存はワインセラーと同じで、気温 22 度、湿度 55%、光も必要最低限とし、人感センサーで点灯する仕組みとなっていた。また、貴重資料書庫は全て杉材を使い、湿度調整を行っていた。これは、国立映画アーカイブでも同じ仕様となっていた。

国立映画アーカイブ図書室では、映画の主題を NDC では分類出来ないため、独自の分類法を開発し分類していた。

第 4 回：「大学図書館の文献提供サービスを振り返る」

開催日時：2018 年 10 月 4 日（木）10 時～17 時
場 所：国際基督教大学オスマー図書館 GF 会議室

事前課題

所属する大学の機関リポジトリと文献提供の状況を把握するため、学術情報基盤実態調査を元に、平成 19 年度と平成 29 年度のデータを調査した。

講演①「機関リポジトリを知る」

（東京歯科大学図書館 阿部 潤也氏）

学術雑誌の価格高騰により、研究者は必要な情報を入手できなくなった。そのことにより、研究者自身が書いた論文すら読めないという状況が起きている。研究成果を研究者自身へ取り戻す方法として、機関リポジトリを含むオープンアクセスが生まれた。オープンアクセスを実現する手段として、ゴールドオープンアクセス（著者支払・読者無料型が一般

的）・グリーンオープンアクセス（著者自身の HP・機関リポジトリ等で公開）がある。機関リポジトリを利用することで研究者は必要な論文を入手できるようになり、研究成果も広く発信できるようになる。しかし、論文掲載数が少ないなどの問題も指摘されている。

講演②「ILL のこれまでとこれから」

（横浜国立大学附属図書館 中山 昌也氏）

ILL は自館で利用者の求める資料が提供できない場合に、他の図書館の協力を得て提供する、図書館間協力の仕組みの一つである。

近年の ILL の利用状況は、本文のフルテキストが利用できる電子ジャーナル、オンライン・データベースの普及に伴い、文献複写の依頼件数が減少している。

これからは利用者に対する ILL の認知度向上や電子リソースの所蔵管理、海外図書館との連携などが課題として挙げられる。

まとめ

自館の電子ジャーナルを充実させると、閲覧できるタイトルが増えるため、ILL の依頼が減少する。一方で電子ジャーナルには価格高騰の問題がある。そのため、今後は機関リポジトリなど、オープンアクセス化を推進していく必要があると聞いた。関連性がないように思えた機関リポジトリと ILL だが、この 2 つは密接に関係しているということを今回の研修で学んだ。

国際基督教大学図書館見学

和書・洋書の区別なく配架されており、館内掲示・サインは日本語と英語の二ヶ国語で併記されている。館内展示や大学図書館として日本ではじめて導入された自動化書庫の見学を行った。

第 5 回：「学習支援の観点で電子ブックを考える」

開催日時：2018 年 11 月 8 日（木）13 時～17 時
場 所：駒澤大学図書館

テーマ

第5回目は「学習支援の観点で電子ブックを考える」をテーマに、電子ブックを取り巻く現状および大学図書館での活用状況を学び、その中で「学習支援」の観点からどのように活用されているのか、どのような課題があるのかについて考えた。

事前課題

事前課題として、下記の報告書、電子ブック、記事を各自が読んだ上で研修に臨んだ。

- 岡本聖, 入江伸. 慶應義塾大学メディアセンター電子学術書利用プロジェクト報告: 出版社・学生と大学図書館で創り出す新しい学術情報流通の可能性. 大学図書館研究. 95(2012), p. 33-42
- 島田貴史. 慶應義塾大学における電子学術書利用実験プロジェクト最終報告. 情報管理, 55 巻 5 号(2012), p. 318-328
- 関西大学図書館電子ブック特設ページ
- http://opac.lib.kansai-u.ac.jp/?page_id=35052 (リンクは2018年9月30日で終了)
- ドミニク・チェン著『フリーカルチャーをつくるためのガイドブック: クリエイティブ・コモンズによる創造の循環』フィルムアート社, 2012

書店による講演

紀伊國屋書店、丸善雄松堂の2社より、電子ブックに関する講演をいただいた。各講演のテーマおよび主な内容は以下のとおり。

講演①「本当に使われる電子図書館とは～3つの電子書籍サービスを通じて考える～」

(紀伊國屋書店 西田 和之氏)

講演②「電子書籍の最新動向～電子コンテンツ活用による新しい教育・学修環境のご提案～」

(丸善雄松堂 川口 達也氏)

- 電子ブックサービスにおける書店の役割と現在の普及状況について
- 会社(書店)ごとのサービス提供形態の違い
- 電子ブックのメリット・デメリット→メリットの一つとして学習支援についても紹介
- 利用促進施策の具体例紹介

講演を受けての気づき

日本国内における電子ブックは2000年台初頭に販売が開始され、その後着実に広がってはいるものの、現状はまだまだ普及段階である。大学図書館の状況も概ね同様で、供給側であるプラットフォーム提供元が複数あり、書店ごとにその扱いが異なるため、ユーザーとしては複数のサービスの中から自分が求めるサービスを探し出し、そのサービスに合わせてアクセスするという能動的なアクションが求められることをはじめ、その仕組みの複雑さが普及を拒む大きな要因のひとつとなっていると感じた。また、大学図書館の課題としては、“電子”であるがゆえの“見えなさ”“わかりにくさ”と、コスト面の問題一紙の本に比べてコストが高い傾向にあること、コスト体系が複雑であること、などに気づくことができた。

第5回のテーマである“学習支援の観点”については、聴覚障がいユーザー向けの音声読み上げ機能や視覚障がいユーザー向けの文字拡大機能、色反転機能などの機能がある一方で、それら機能の実装状況は言語、サービスによってバラつきがあるという、現状での問題点についても知ることができた。

まとめ

電子ブックを取り巻く状況は過渡期であり、メリット・デメリットの双方が混在していることを具体的な事例を通して知ることができた。デメリットは、供給サイド、図書館、利用者それぞれの立場の違いから生じる認識の差、“ギャップ”が一因となっていること、そしてそのギャップこそが“ニーズ”につながっているという気づきを得

ることができた。三者がそれぞれの立場から、相手への想像力を持ってコミュニケーションを重ねていくことが、ギャップを越え、ニーズを満たし、結果として電子ブックがより使いやすく普及していくことに繋がるのではないかという、期待を含めた感想を得る回となった。

研修全体を通して一振り返りと気づき

① 「一人ではない！」

会員は比較的年次の浅い図書館職員で構成されており、慣れない現場にとまどいや不安を抱えている会員も多かった。そのような中、同じような境遇にある他大学の図書館職員と情報交換や思いなどを共有できたことは安心感に繋がった。そしてお互いの学ぶ姿勢に刺激を受け共に成長することができた。

事前課題では、職場の先輩や上司にアドバイスを頂くなど、研修への参加を支えて頂いた。そのような意味でも「一人ではない！」と思えた研修だった。

② 図書館業界への理解

研修では多岐にわたる広範囲なテーマに取り組むことで、図書館業界の課題や図書館の歴史などを学ぶことが出来た。また、個々のテーマは密接に繋がっており、回を重ねるごとに知識が身についていることを実感出来た。

③ 効果的な学習

事前課題→講演→グループ討議→図書館見学→まとめ、という一連のステップを踏むことで最大限の学習効果を実感できた。ただ漫然と座学を受けるのではなく、課題を積極的に考える機会が多くあった。そのため記憶に残り、知識を自分のものに出来た。

④ モデリングの獲得

講師や各施設の職員など様々な方にお会いすることが出来た。所属する施設の存在意義を明確

に理解し、熱い気持ちで相手に伝える姿勢に何度も心を打たれた。将来像や理想像などを描くきっかけになった。

⑤ 「百聞は一見にしかず」実際に足を運ぶことの重要性

Web サイトやパンフレットなどで情報は得られても、働いている職員の情熱や、大学や図書館が醸し出す空気、施設の素晴らしさなどは現場に行ってみないと分からない。今後も積極的にさまざまな施設に足を運びたい。

⑥ 他大学図書館との違いの発見

各大学図書館見学を通して違いを発見し、情報交換をすることができた。他大学のよい点は積極的に導入するべきだと考える。

⑦ 会員同士の交流

同じものを見て聞いて、それぞれが違う感じ方、考え方を持ち、自分の言葉で語り、意見を交わし、交流出来たことはかけがえのない経験だった。ここで得た横の繋がりは今後も大切にしていきたい。

多くの方々のご理解とご協力のもと素晴らしい研修を受講することが出来た。私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校成城大学図書館の新井様、高島様、吉田様、大学図書館支援機構 IAAL の高野様、各テーマの講師の皆様、会場を提供して下さった5大学の関係者の皆様、各大学図書館の上司、先輩、同僚の皆様、そして一緒に考え意見を交わし一つのものを作り上げた13名の会員に深謝の意を表する。

《研究分科会刊行物一覧》

分科会名	和漢古典籍 研究分科会	レファレンス 研究分科会
書名又は誌名	なし	なし
刊行頻度		
価格		
発行部数		
配布対象 ・ 頒布方法 ・ 在庫		
発行目的 ・ 主な内容		
コメント ・ 今後の刊行 予定		

《2018 年度研究分科会月例会について（報告）》

研究部担当理事校 成城大学図書館 【2017 年 4 月から担当】

月例会担当理事校 聖心女子大学図書館 【2017 年 4 月から担当】

1. 月例会・夏期研究合宿開催状況（2019 年 3 月 1 日現予定含）

研究分科会名称	月例会開催数	夏期合宿（集中研究会）開催期間
和漢古典籍 研究分科会	9	9 月 25 日及び 9 月 27 日（集中研究会）
レファレンス 研究分科会	12	9 月 10 日（集中研究会）

＊夏期合宿・集中研究会内訳（【 】は前年度）

夏期合宿 0【0】、集中研究会 2【5】、実施せず 0【0】

2. 2018 年度中の動き

研究分科会の活動期間は 2 年であるため、2018 年度は更新年度に当たる。廃止は 1、休会が 3 となり、2018-19 年度は 2 研究分科会が活動することとなった。

研究分科会の会員異動は中途参加 1 件であった。各研究分科会の会員数は 4 名、月例会は、それぞれ年間 9～12 回開催された。夏期合宿（又は集中研究会）は、2 研究分科会のいずれもが実施した。11 月には研究会（交流会）が開催され、33 大学 47 名の参加があった。各研究分科会から、2 年間の研究課題についての説明、活動計画についての発表等があり、これからの活動に大きな期待を抱く内容であった。

3. 今後の課題

図書館は、時には利用者の求めや大学の意向を反映し業務が変化していくこともあるが、今期活動している研究分科会は、いずれもが図書館業務の根本を支えるテーマについて積極的な研究活動を行っている。ただ、業務委託に伴う人員削減等により、メンバーの確保・固定が大きな課題となっている。今後は、活動中の研究分科会だけでなく、既に休会の研究分科会のこれまでの成果をどのように紹介し復活させるか、新たなテーマによる研究分科会の新設をいかにサポートしていくかが課題となっていくであろう。

《2019 年度研修分科会会員の更新結果（報告）》

研究部担当理事校 成城大学図書館

分科会更新担当理事校 創価大学図書館

1. 更新状況

(2019 年 3 月 31 日現在)

分科会名	更新前		更新後		増減	備考
	参加人数	機関数	参加人数	機関数		
研修分科会（単年度更新）	13	12	16	16	3	

※第一次締め切り後、3 月 31 日までに参加申し込みのあった機関も含む。

ただし、参加の諾否決定は 4 月 5 日の最終締め切り後。

※研究分科会は 2 年ごとに更新のため、2019 年度の更新はなし。

2. 会員更新経過

【2018 年】

9 月中旬

- ・研修分科会代表者宛「2018 年度研修分科会会員募集要項の原稿提出について（依頼）」を E メールにて送信。

12 月 14 日（金）

- ・第 7 回運営委員会にて、2019 年度研修分科会募集について確認を行った。（加盟館宛「更新について（お願い）」、募集要項、申込書等）

【2019 年】

1 月 21 日（月）

- ・研修分科会の会員更新書類として、下記書類を加盟大学図書館長宛に E メール送信し、次期会員募集を開始。

- ①「2019 年度研修分科会会員募集について（お願い）」
- ②「2019 年度研修分科会参加申込書」（機関用・提出書類）
- ③「2019 年度研修分科会参加申込書」（個人票・提出書類）
- ④「2019 年度研修分科会会員募集要項」

※第一次締め切り：2 月 22 日（金）、最終締め切り：4 月 5 日（金）

2 月 22 日（金）

- ・一次募集締め切り。14 機関 14 名の応募あり。

3 月上旬

- ・研修分科会代表者に、下記書類を E メールにて送信。
- ①「2019 年度研修分科会参加申込書（機関用）および（個人票）」
 - ②「研修分科会参加希望者承認の諾否、およびその通知について」

3月8日（金）

- ・第8回運営委員会で、研修分科会の参加希望者一覧（第一次締め切り分）を報告。

3月13日（水）

- ・研修分科会代表者より諾否結果を受領。

3月14日（木）

- ・研修分科会参加申込大学図書館長宛に、「2019年度研修分科会参加者中間報告（一次分）について（通知）」、「2019年度研修分科会参加者一覧（一次締切分）」を郵送にて送付。

3. 総括

2019年度の研修分科会の申し込みは、3月末時点で16名と、2018年度を上回ることができた。初任者向けの研修を担う研修分科会は、各加盟館において一定のニーズがあると考えられる。

なお、2018/2019年度の研究分科会については6研究分科会が募集を行い、2018年4月の時点で1分科会が廃会、3分科会が休会し、2分科会が成立となった。

《研究講演会》

私立大学図書館協会 2018 年度東地区部会研究講演会

日 時： 2018 年 6 月 8 日（金） 13：45～16：45
会 場： 共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス 共立講堂
出席校： 151 大学（出席者：260 名）
テーマ： 大学図書館における支援の在り方を考える
司 会： 研究部運営委員 慶應義塾大学 浅尾 千夏子
研究部運営委員 創価大学 山田 和宏

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| 1. 開会の辞 | 13：45～ |
| 2. 挨拶 研究部担当理事校 成城大学図書館長 田嶋 信雄 | |
| 3. 講演 | |
| 1) 「連携してつくる大学図書館の学習・教育支援サービス」 | 14：00～15：00 |
| 筑波大学図書館情報メディア系教授 呑海 沙織 | |
| 質疑応答 | 15：00～15：15 |
| ＜休憩＞ | 15：15～15：30 |
| 2) 「大学図書館は学修支援にどう取り組むのか」 | 15：30～16：30 |
| 新潟大学学術情報部長 岡部 幸祐 | |
| 質疑応答 | 16：30～16：45 |
| 4. 閉会 | 16：45 |

※講演の要旨は「私立大学図書館協会報」152 号に掲載予定。

《研究会（交流会）》

私大図協・東・研・2018-35

2018年10月17日

私立大学図書館協会
東地区部会
加盟大学図書館長 殿

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
成城大学図書館
館長 田嶋 信雄
【公印省略】

2018年度研究会（交流会）について（ご案内）

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より、私立大学図書館協会東地区部会の活動にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

さてこのたび、2018年度研究会（交流会）を下記のとおり開催することになりました。

この研究会（交流会）は、分科会報告大会の前年度に分科会会員及び各大学の図書館職員が交流を深めながら、分科会活動への理解を深めると共に、私立大学図書館が直面している共通のテーマについて、実務に役立つ研修を行うことを目的としています。

つきましては、館務ご繁忙のところを誠に恐縮ですが、貴館職員及び貴館の研究分科会会員（2018～2019年度）、研修分科会会員（2018年度）の参加につきましてご高配をたまわりたく、お願い申し上げます。

敬具

記

1. 日 時 2018年11月30日（金） 13：30～17：00（受付開始 13：00 から）
2. 定 員 60名
 ※定員オーバーの場合、優先順位は現分科会会員、元分科会会員、一般参加の順とさせていただきます。
3. 会 場 東海大学高輪キャンパス 1201 教室（1号館2階）
 〒108-8619 東京都港区高輪 2-3-23
 アクセスマップ：https://www.u-tokai.ac.jp/info/traffic_map/

4. 内 容

(1) 研究分科会活動中間報告 (13:40~14:00)

①和漢古典籍研究分科会 ②レファレンス研究分科会

※中間報告は各 10 分です。

(2) 研修分科会 2018 年度活動報告 (14:00~14:40)

(3) 講演 (14:50~16:35)

テーマ:「RDA と目録の書誌的宇宙」

講 師: 大学図書館支援機構 副理事長 高野 真理子 氏

現在、目録の世界は大きな変革期を迎えており、CAT2020 や日本目録規則 2018 年版を理解するには、RDA に関する知識が不可欠となっています。そこで、今回はこれからの目録業務に欠かせない RDA についての理解を深めると共に、IFLA LRM など世界的な目録の動向についても解説していただきます。

大学図書館を対象とした首都圏での開催は今回が初めてになりますので、これから RDA を学びたい方はもちろん、既にご存知の方も是非ご参加いただき、図書館の根幹ともいえる目録の世界を深め、日常業務に役立ててください。

5. 申込方法 参加ご希望の方は、下記の専用サイトからお申し込みください。

http://www.jaspul.org/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=2018_kouryukai

注意事項

- ①申込締切は 11 月 16 日 (金) です。
- ②申し込んだ方には、受付完了メールが自動返信されます。メールが届かない場合は事務局までお問い合わせください。
- ③参加できない事情が生じた場合は、速やかに事務局へご連絡ください。
- ④定員超過でご辞退をお願いする場合のみ、11 月 21 日 (水) までにお申し込みいただいたメールアドレスへご連絡いたします。
- ⑤研究会 (交流会) での議論、アンケートの内容及び記録写真については、主催者側が作成する報告書、広報資料、研究報告、ホームページ等に使用場合がありますので、ご了承ください。
- ⑥ご提供いただいた個人情報は、当研究会 (交流会) の実施に関する連絡等に利用し、他の目的で使用することはありません (但し、法令等により提供を求められた場合を除きます)。

6. 問い合わせ 私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校

成城大学図書館 (担当: 新井・吉田)

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20

E-mail: eastlib@seijo.ac.jp

Tel: 03-3482-3555 Fax: 03-3482-7221

以上

※講演の要旨は「私立大学図書館協会報」152 号に掲載予定。

《研修会（地域研修）》

私大図協・東・研・2018-17

2018年7月2日

私立大学図書館協会
東地区部会
加盟大学図書館 御中

私立大学図書館協会東地区部会
研究部担当理事校
成城大学図書館
館長 田嶋 信雄
研究部研修委員会
委員長 和田 貴敏
[公印省略]

私立大学図書館協会東地区部会研究部
2018年度地域研修の開催について（お知らせ）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し、格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび標記の研修を下記のとおり開催することになりましたので、ご案内申し上げます。地域研修は地域活性化と図書館職員のスキルアップを目標に、2016年度から隔年で開催される研修プログラムで、今年度は北星学園大学様のご協力を賜り、札幌で開催いたします。

つきましては、この機会に多くの方にご参加いただきたく、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

1. 日 時：2018年10月19日（金） 11：00～17：00

2. 会 場：北星学園大学 第5会議室（C館2階）

（所在地）札幌市厚別区大谷地西 2-3-1

（URL）<http://www.hokusei.ac.jp/access/>

（交通案内）添付資料をご覧ください

3. 対 象：私立大学図書館協会東地区部会加盟大学図書館に勤務する専任職員

4. 定 員：40 名程度

※1 大学（加盟館）1 名を優先しますが、複数名の申込みも可とします。

但し、応募者多数の場合は研修委員会にて調整させていただきます。

5. 費 用：受講無料

※研修に伴う交通費・宿泊費等は、派遣大学でご負担ください。

※昼食はご用意いたします。

6. 研修テーマ：「図書館職員によるライティング支援実践講座」

大学図書館では学修・教育支援の充実を図るため、様々な施設の改修や環境整備が進められていますが、同時に図書館とは別にライティングセンターなどを設置する大学も増えています。しかし、多くの私立大学ではその役割が図書館に求められていることから、近年では単なる場の提供に留まらず、図書館主導でライティング支援を行うケースもみられます。

レポートや論文の書き方が分からない学生に対し、レファレンスをはじめとする図書館職員はどんなサポートを行うべきでしょうか。また、私たち図書館職員にはどんなライティング支援が可能でしょうか。

学習環境の整った大学図書館が学生の期待に応え、かつ、教員からも信頼を得ることで、私たちはこれまでと違った存在価値を学内にアピールすることができるはずです。図書館を取り巻く環境は厳しさを増していますが、今回の研修で、各大学における学修支援の現状を再確認し、一步踏み込んだライティング支援の実現に向けた改善方法や実践のためのヒントをつかんで頂きたいと思います。

7. 研修内容

(1) オープニング

・アイスブレイク、参加者同士の事例共有

(2) 大学におけるライティング支援の現状と課題

・レポートライティング支援の必要性、レポートとは何か

(3) ライティング支援の方法

・ライティング支援者の役割と支援方法

(4) ライティング支援の実践

・ロールプレイを通しての実践

(5) クロージング

※途中、昼食のお弁当をグループでとっていただきます。お弁当はご用意いたします。

※講義のほかに個人ワークやグループワーク（ロールプレイング）を予定しています。

※17：00 以降、受講者からの質問に講師がお答えしますので、ご質問のある方やお時間に余裕のある方はお残り頂いて結構です。最長で1 時間程度を予定しています。

※図書館見学を希望される方は 22：00 までご見学頂けます。

8. 講 師

青山学院大学教育人間科学部教育学科 教授 杉谷祐美子 氏

青山学院大学アカデミックライティングセンター 助手 小林至道 氏

9. 参加申込

参加ご希望の方は、以下の 2018 年度地域研修参加申込用 URL からお申込みください。

なお、この案内書は各大学図書館の中央館にのみ送付しており、分館等へは送付しておりませんので、ご周知くださいますようお願いいたします。

申込用 URL : http://www.jaspul.org/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=training_2018

【注意事項】

(1) 申込締切：7 月 31 日（火）

(2) 参加申込みは、中央館（本館）で取りまとめて申込をお願いいたします。申込後、受付完了メールが自動返信されます。メールが届かない場合は、事務局へお問い合わせください。

(3) 参加可否は、8 月中旬までに申込者全員にご連絡いたします。

(4) 受講が決定した方には別途、事前アンケートにご協力頂きます。

(5) 参加できない事情が生じた場合は、速やかに事務局へご連絡ください。

(6) 研修会での議論、アンケートの内容および記録写真については、主催者側が作成する報告書、広報資料、研究報告、ホームページ等に使用する場合がありますのでご了承ください。

(7) 研修中の写真撮影、録音および録画はご遠慮ください。

(8) ご提供頂いた個人情報は、当研修会の実施に関する連絡等に利用します。取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません（但し、法令等により提供を求められた場合を除きます）。

以上

問い合わせ先：私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校事務局

成城大学図書館（担当：吉田・新井）

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20

E-mail : eastlib@seijo.ac.jp Tel : 03-3482-3555

※8 月 11 日（土）～8 月 19 日（日）は夏季一斉休業期間のため、お問い合わせ等の対応ができませんので、予めご承知おきください。

私大図協・東・研・2018-26

2018 年 8 月 4 日

2018 年度地域研修参加者 各位

私立大学図書館協会東地区部会
研 究 部 担 当 理 事 校
成 城 大 学 図 書 館
館 長 田 嶋 信 雄
研 究 部 研 修 委 員 会
委員長 和田 貴敏
[公印省略]

私立大学図書館協会東地区部会研究部
2018 年度地域研修について（ご案内）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

標記の地域研修につきまして、下記のとおり改めてご案内いたします。事前アンケート等もごございますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは、当日のご参加をお待ち申し上げます。

敬具

記

日 時：10 月 19 日（金） 11：00～17：00

会 場：北星学園大学 第 5 会議室（C 館 2 階）

住 所：札幌市厚別区大谷地西 2-3-1

（アクセス）<http://www.hokusei.ac.jp/access/>

（キャンパスマップ）<http://www.hokusei.ac.jp/campusmap/>

テーマ：図書館職員によるライティング支援実践講座

＜当日のスケジュール＞

10：30 開場・受付開始

11：00－11：10 開講式・挨拶

11：10－16：50 (1) オープニング（アイスブレイク、参加者同士の事例共有）

(2) 大学におけるライティング支援の現状と課題

（レポートライティング支援の必要性、レポートとは何か）

(3) ライティング支援の方法

（ライティング支援者の役割と支援方法）

(4) ライティング支援の実践（ロールプレイを通しての実践）

(5) クロージング

16：50－17：00 閉講式・挨拶

その他：

- ①途中、昼食のお弁当をグループでとっていただきます。お弁当は研究部でご用意いたします（無料）。
- ②17：00以降、受講者からの質問に講師がお答えしますので、ご質問のある方やお時間に余裕のある方はお残り頂いて結構です。最長で1時間程度を予定しています。
- ③図書館見学を希望される方は22：00までご見学頂けます。

事前アンケート：

情報交換の際に自大学のライティング（学習）支援についてご報告いただけるよう、現状を把握しておいてください。

また、添付の「図書館職員によるライティング支援実践講座アンケート」にご記入いただき、8月31日（金）までにご提出ください。アンケート結果は、当日のプログラム内でフィードバックいたします。

アンケート提出先：east-kenshu-m1@jaspul.org

参考文献：

ライティング支援に関する書籍や論文が添付の「参考図書リスト」に掲載されていますので、あわせてご確認ください。

お問い合わせ：

ご参加に当たりご不明な点がございましたら、研究部担当理事校までお問い合わせください。

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校事務局

成城大学図書館（担当：吉田・新井）

TEL 03-3482-3555 E-mail eastlib@seiyo.ac.jp

※8月11日（土）～8月19日（日）は夏季一斉休業期間のため、お問い合わせ等の対応ができませんので、予めご承知おきください。

なお、当日の緊急連絡は 北星学園大学図書館 TEL：(011)891-2664 までお願いいたします。

以上

私立大学図書館協会東地区地域研修2018

図書館職員によるライティング支援実践講座 学生のレポート・論文の相談に応じる

杉谷祐美子

(青山学院大学 教育人間科学部教育学科)

小林 至道

(青山学院大学 アカデミックライティングセンター)

2018年10月19日
於：北星学園大学

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林至道

オープニング

2

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林至道

アイスブレイク

④グループの他のメンバーに簡単な自己紹介

- (1) お名前とご所属
- (2) 普段の業務など
- (3) あなたにとって大学生時代のレポート課題とは？
- (4) この研修への意気込み（何をもち帰りたいか？）

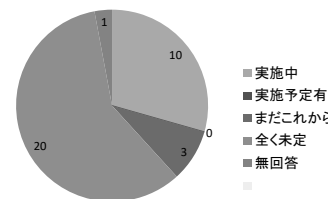
④グループ全員で約10分

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林至道

事前アンケート集計結果 (N=33)

(Q1) 現在、レポート・ライティング支援を行っているかどうか、現状についてお尋ねします。
次の選択肢のなかで、最も近い状況を1つ選んでください。
なお、場所は図書館、図書館以外の施設・教室を問いません。

Q1 レポート・ライティング支援の現状

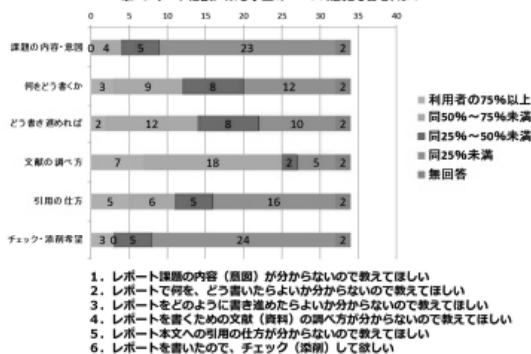


1. 既に実施している (10)
2. まだ実施していないが、実施予定のだいたい時期は決まっている (0)
3. まだ「そういう話がある」程度の段階で、実施に向けてこれから動き出す予定 (3)
4. まったく未定 (20)

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林至道

(Q2) 貴学学生がレポートの相談に訪れる場合、どのような学生ニーズが想定されるでしょうか？
まだ相談を受けたことがない場合は、貴学の初年次生レベルを想定してお答えください。
なお、選択肢は次の4つの中から選び、番号で右欄の()にお答えください。

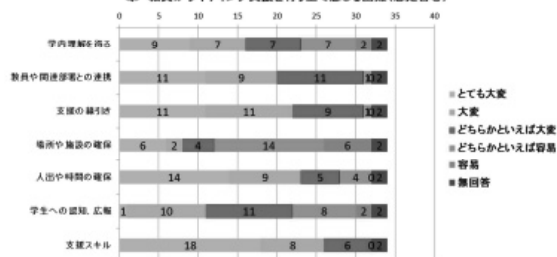
Q2 レポート相談に来る学生のニーズ(想定も含む)は？



Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林至道

(Q3) 職員としてライティング支援を行う上で（これから実施予定の方は、予想で構いません）、どのような点に困難を感じますか？（困難が予想されますか？）以下の各設問にお答えください。
なお、選択肢は次の5つの中から選び、番号で右欄の()にお答えください。

Q3 職員がライティング支援を行う上で感じる困難(想定含む)



1. 図書館（職員）がライティング支援を行うことについて、学内での理解を得る
2. レポート課題について教員や関連部署と連携をとる
3. 図書館（職員）としてどこまでライティング支援を行って良いのかの線引き
4. (図書館の) どこで支援を行えば良いのか、実施する際の場所や設備の確保
5. ライティング支援をする際の人手や時間をいかに確保するか
6. 図書館でライティング支援を行うことの学生への認知、広報的な課題
7. 学生にライティング支援をどのように行えば良いのか、スキル上の課題

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林至道

この研修の目的

- ㊦ 学習支援の一環として、ライティング支援者（職員・チューター）の立場に立って、レポート・論文に関する学生からの相談に対応するうえでのポイントを、体験的に学ぶこと。
- ㊦ 他大学の教職員との交流を通して、図書館職員として、自大学のライティング支援について考える契機とすること。

プログラム

1. レポートライティング支援の現状と課題
 - 1-1. ライティング支援の必要性
 - 1-2. 図書館職員として支援にどう関与するか
2. ライティング支援の方法
 - 2-1. レポート・論文とは？
 - 2-2. 文章診断を行う（個人ワーク・グループワーク）
 - 2-3. レポート作成のプロセスを支援する
3. ライティング支援の実践
 - 3-1. ライティング支援を体験する（ロールプレイ）
 - 3-2. ライティング支援を振り返る（ディスカッション）

1. レポートライティング支援の現状と課題

1-1. ライティング支援の必要性

ライティングに関する調査結果

- ㊦ 某旧帝国大学の新入生に行なった調査（渡辺 2010）
 - まとまりのある長い文章を書くのが苦手 → **64.4%**
 - 文章の要約をすることが苦手 → **53.9%**
- ㊦ 関西大学が学士課程学生を対象に行なった調査（N=801）
 - 文章を書くことに対して苦手意識がある → **73.2%**
 - レポートとはどのような文章かイメージが掴むことができない → **63.3%**

（関西大学ライティングラボ 2015）

大学生がレポート・論文を書けない背景

（1）大学に至るまでの問題点

- レポート・論文を書く機会やその書き方の指導を受けた経験がほとんどない
- 初等、中等教育の読書感想文などで求められてきた情緒的な文章と、高等教育のレポート・論文で求められる論理的な文章のギャップ
- レポート・論文を書くうえで求められる主体的な姿勢に対して、高校教育までの受身的な姿勢（井下 2002, 2008）

（2）大学における問題点

- 課題内容に関する説明はしても、レポート・論文の書き方の指導までする教員は少ない
- 提出されたレポート・論文に対する教員からのフィードバックは、基本的にはA、B、C・・・といった記号のみによる評価となる場合が多い

学生の側からすれば…



- どういったレポート・論文が求められているかわからない
- レポート・論文のどこが、どう評価されたのかわからない

ライティング支援の必要性

大学で求められるレポート・論文って？

- 何を書いたらいいのかわからない（知らない）
- どう書いたらいいのかわからない（知らない）
- 誰に教わればいいのかわからない
- どう評価される（された）のかわからない

⇒こうした学生のニーズに応える支援を、大学入学前・卒業後も視野に入れながら、大学全体で行う必要がある

13

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林宏道

この研修が想定する学生像

大学で求められるレポート・論文を書く際に…

- 自分は、何がわからないかもよくわからない
- 何から始めれば良いのかわからない
- 何をどのように書き進めれば良いのかわからない
- 求められている水準に達しているかわからない
- 図書館をどう活かしたら良いのかわからない

～学生アンケートの記述より（小林・中竹ら 2018）～



初歩的な段階で、悩みや困難を抱えている学生

14

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林宏道

学生の問題とは

レポート・論文相談窓口に来る学生

- 授業科目や課題を理解できておらず、図書館に馴染みもなく、切羽詰まってから相談（山本 2003）

⇒ **ライティング支援以前の指導・支援**

レポート・論文に苦手意識をもつ学生

- 苦手な人ほど事前によく構想しないまま文章を書きはじめる、やがてネタ切れし、行き詰まり、文章の引き延ばしに苦心する（渡辺 2013）

⇒ **書く前の準備、構想の重要性の理解**

学生が求める図書館の学習支援

- 実際に必要になったときにこそ受けたい情報リテラシー教育
- 顔の見える関係づくり、教員への質問の敷居の高さ（上岡 2008）

⇒ **学生の学習の文脈のなかで、個別に安心できる対応を**

15

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林宏道

教員からの要望

- **いくら教えられても、必要に迫られないとわからない、身につかない学生たち**
- **図書館で何をどこまでできるか、どの程度手助けしてもらえるのかわからない学生たち**



図書館を活用させる授業課題と事前打合せ

- 1ヶ月ほど前に、テーマ、資料の所在、調べ方の支援や指導の程度について打合せ

学生の個別の状況に応じたサポート

- 困ったときに、「正解」だけでなく、いろいろな資料の使い方を説明してもらいながら調べていく

レファレンスで学生が相談しやすい環境づくりを

（林 2009）

16

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林宏道

ライティング授業のアンケートより（杉谷 2017）

30/41名が文献・情報の収集・読みに言及

- 参考文献の重要性

「以前は、作文と論文の違いすら分かりませんでした。今では論文には参考文献が重要な力を与えていることを理解することができました。」

- 適した文献を見つけることと文献の価値を判断する力の重要性

「適切な参考文献を見つけるのに苦労し、難しいと感じた。（中略）特に、教育に関する文献には様々な意見を持つものがあり、何が最も適切であるか見極めるのが難しいと感じた。」

17

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林宏道

- 情報の整理を丹念に行うことや情報の関連性を見極めることの重要性

「今回の論文を書くにあたって、文献を見る際に何度もいろんなページを探すということが多々あったので、最初の頃授業で行った、文献の情報についての整理をより正確に行えるようにならなければいけないと感じました。またそのように文献の内容を簡潔にまとめるのと同時に、筆者の主張を短くまとめて、ほかの文献の筆者の主張とどのような関係にあるか（正反対の主張をしているなど）をまとめておければ、論文を書いている途中でも考えをまとめやすいと感じました。」

18

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林宏道

1-2. 図書館職員として支援にどう関与するか

19

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林聖道

「教員-職員としての業務の線引き」に関するFAQ

Q. 支援者自身の専門分野が相談者と違う場合がほとんどです。その場合にどこまでアドバイスができるのか、線引きに関して悩んでいます。具体的な事例や線引き判断のヒントをいただきたいです。

A. 専門的な議論（学問的内容）までは踏みこまず、読み手としてわかりにくい点、形式的な問題点の指摘までにする。

Q. 教員と図書館職員は、互いに協同すべき（職員は教員の領域に踏み込むべき）でしょうか？

A. 学問的内容に関する教育的責任は教員が担う一方で、図書館職員としての専門性（例えば情報検索に関する知識方法論）を活かせる協働のあり方があるのではないかと。

20

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林聖道

ライティング支援をどう行うか

㊦どのようにライティング支援を行うかは、各大学の理念と方針、学内リソースの条件、学生の実態などによる

→他大学の事例・方法を、そのまま自大学に適用する…というわけにはいかないところに、やりがいと同時に難しさがある

㊦運営が発展的に継続されている大学の共通点

- 役割分担の明確化、組織化、運営ノウハウの内製化
→とくに立ち上げ期は、学内外の専門家の力を活かしている
→学内の教職員が一体となって、組織的に取り組んでいる
- 利用者ニーズ・実態に即し、サービスを徐々に拡張
例）立ち上げ期は学部生・日本語のみ。3年後に英語も…など

21

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林聖道

ライティング支援で必要となるリソース

1. 支援者：利用者の相談対応（支援）を担う
 - レポート・論文の書き方に関する知識、それを教えるスキル
2. 運営管理者：支援現場のマネジメントを担う
 - 支援者の募集・採用・育成、日々の勤務管理
 - システム（予約・HP）管理、広報活動など、日々の運営全般
3. 資金
 - 人件費、光熱費、印刷費、支援ツール費、研究費など
4. 場所
 - なるべく低層階で学生の動線上（必ず通る入口近く）が理想的
 - 図書館内 or その近隣：学術的情報へのアクセシビリティの良さ

22

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林聖道

ライティング支援で図書館職員に期待される点

㊦「書く」以前（以外）の段階でつまづく学生のサポート

- レポートや論文を「書く」以前に、それらを書くために必要な資料・文献を「探す」「調べる」「読む」「引用する」段階で、適切な方法・ルールを知らない学生が少なくない

→学生がレポート・論文を「書きあげる」までのプロセスでとくに「探す」「調べる」「読む」「引用する」など資料文献の活かし方、形式的なルールに関する支援については、教員だけではなく、図書館職員においても、専門性を活かせる関与の仕方があるのではないかと（小林・中竹ら 2018）

⇒ライティングプロセス全般を支援する中での役割分担・連携

23

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林聖道

図書館職員が関わるライティング支援 －国立大学・大規模校の事例－

㊦広島大学ライティングセンター（上田ら 2017, 上田 2018）

- 学内の学習支援と研究支援を目的に、2012年度に設置
- 図書館職員は、その設置とマネジメントで中心的な役割
→チューター採用、勤務管理、予約・システム管理、広報などを担当
- 支援者は、大学院生（2018年現在、22名体制）
→立ち上げ期は、研修などを、学外の専門家に依頼
→学内教員、他部署との協力とチューター自身により、ノウハウの共有
OJTなどを行い、自立的な運営

㊦他の事例

- 大阪大学附属図書館（末田・堀ら 2013）
- 筑波大学附属図書館（村尾ら 2014）
- 九州大学附属図書館（山口・糸数 2014）

24

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林聖道

－私立大学・小～中規模校の事例－

㊦共愛学園前橋国際大学図書館

- AP（2015年～）における取り組みの一つとして、図書館内にライティングサポートデスクを設置（実績報告書 2017）
- 支援者は、学部2年～4年生（10数名体制）
→支援対象者や支援期間・時間を限定して行っている
→支援の縦断的な効果検証を行っている（佐藤ら 2017, 2018）
- 図書館職員は、他の図書館業務と並行してマネジメント
→スキルアップ研修や運営方法の補助を外部委託→徐々に内製化

㊦その他の事例

- 国際基督教大学図書館（畠山 2011）
- 神戸女学院大学図書館 iLibスタッフ（2013年～）

25

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷花美子 小林宏道

－青山学院大学の事例（小林・中竹ほか 2018）－

㊦アカデミックライティングセンター（AWC）

- 大学図書館に併置という形で新設（2017年10月～）
- AWCが新設される以前は、図書館職員（主にレファレンス担当者）がライティング支援を行っていた（2013年～）
→ライティング支援、学習支援が専門ではないことによる限界
→セミナー開催などの負担増。その割に利用者が集まらなかった
- ライティングプロセス支援全般をAWCが担うなか、情報検索に関わる高度な支援を、図書館レファレンスが担う
⇒図書館職員は、AWCの教員や他部署職員と連携しつつ、従来のスキルを最大限活かす形でライティング支援に関与

26

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷花美子 小林宏道

図書館職員による関与の具体例

㊦「レポート・論文の書き方」関連おススメ図書の貸出

- 学期末などレポート・論文提出の繁忙期を見計らい
その少し前から、図書館の一角で関連図書を提示
⇒自大学内ではどの時期に、どのような課題が出されるのか。
教員、提出先となる部署（教務課など）と連携し情報収集
- 学生の動線上に関連図書を展示
⇒図書の傍にポップを添えるなど、目に留まりやすいよう工夫
⇒ライティングを専門とする教員の推薦図書であることを、本の帯紹介のようにワンフレーズで端的に示す
⇒学生の反響が非常によく、多くの貸し出しがあった

27

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷花美子 小林宏道

㊦教員との協働によるライティングセミナーの開催

- 2018年度前期、各回12：40～13：10（昼休み）に実施

	セミナータイトル	実施日
第1回	レポートを書くための準備	4月23日
第2回	レポートの基本	4月24日 7月2日
第3回	レポートのための資料の探し方	4月25日 7月3日
第4回	レポートを書くための本の読み方	4月26日 7月4日
第5回	引用のルール	4月27日 7月5日
参加者数（のべ）		324名 167名

⇒多くの参加者があり、事後アンケート結果も好評であった

28

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷花美子 小林宏道

教職員が協働するにあたって考慮した点

- メイン対象者と実施時期をデータに基づき絞ること
例）初年次生のレポートのニーズ→4月・7月、昼休みに実施
- 図書館とライティングセンターの利用につなげること
→図書館レファレンスサービスや、ライティングセンターの個別相談で「どのような支援を行なっているのか」、利用することによって、「どのような悩みが解決できるのか」を、学生に伝えた
- 図書館職員としての専門性、日常業務を活かすこと
 - 「探す」「調べる」に関する回のコンテンツの作成と講師
→前スライド表の「第3回：レポートのための資料の探し方」
 - 広報用のキャッチーなポスターの作成、学内各所での掲示
 - 学生ポータル（情報端末）やHPでの周知、SNSでの情報発信

29

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷花美子 小林宏道

グループディスカッション

㊦課題

事前アンケートの結果、これまでの講義内容を踏まえ、ライティング支援をめぐる自大学の実情について情報共有する

㊦時間は、約20分

㊦代表して1～2名が発表し、全体で情報共有

30

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷花美子 小林宏道

2. ライティング支援の方法

2-1. レポート・論文とは何か？

31

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林基道

2-2. 文章診断を行う

32

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林基道

2-3. レポート作成のプロセスを支援する

33

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林基道

3. ライティング支援の実践

3-1. ライティング支援を体験する

34

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林基道

3-2. ライティング支援を振り返る

35

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林基道

メモ

36

Copyright (C) 2018 青山学院大学 杉谷祐美子 小林基道

クロージング

総括とアンケート記入・質疑応答の案内

㊦講師からのコメント（総評）

㊦事後アンケート

- 今後のプログラム改善のためにご協力ください

㊦質疑応答

- 両講師が、この後1時間ほど個別に対応
→本研修を通しての疑問点、感想など
→ライティング支援の実際に関する質疑応答

㊦連絡先

- 杉谷祐美子 sugitani@ephs.aoyama.ac.jp
- 小林 至道 kobayashi.norimichi@iris.ocn.ne.jp

参考文献一覧

- 花井等・若松篤（1997）『論文の書き方マニュアル－ステップ式リサーチ戦略のすすめ』有斐閣。
- 畠山珠美（2011）「ライティング・センター：構想から実現へ」『情報の科学と技術』61巻12号、pp.483-488。
- 林左和子（2009）「静岡文化芸術大学図書館・情報センターの学習支援の可能性を考える」『静岡文化芸術大学研究紀要』Vol.10、pp.23-26。
- 稲葉直也（2016）「大学図書館とライティング・センターの連携」『ふみくら：早稲田大学図書館報』No.90、pp.8-9。
- 井下千以子（2002）『高等教育における文章表現教育に関する研究－大学教養教育と看護基礎教育に向けて』風間書房。
- 井下千以子（2008）『大学における書く力考える力－認知心理学の知見をもとに』東信堂。
- 加野芳正（2011）「第1章 学生支援は『誰が』、『何を』支援するのか」加野芳正・葛城浩一編『学生による学生支援活動の現状と課題』（『高等教育研究叢書』112号）広島大学高等教育研究開発センター。

- 関西大学教育推進部（2015）『レポートの書き方ガイド〔基礎篇〕』。
- 小林至道・中竹真依子・天野朗子・近藤泰弘（2018）「大学図書館とライティングセンターの協働による効果的なライティング支援」日本図書館情報学会第66回研究大会（2018年11月）発表論文より。
- 共愛学園前橋国際大学（2017）『平成28年度大学改革推進事業（大学教育再生加速プログラム）実績報告書（暫定版）』、p.4。
<http://www.ap.kyoai.ac.jp/img/file4.pdf>（2018年9月28日閲覧）
- 村尾真由子・松原悠・洪昇基ほか（2014）「筑波大学附属図書館ラーニング・アドバイザーの活動」『大学図書館研究』、pp.108-118。
- 名古屋大学高等教育研究センター「学期末論文の評価基準」『成長するティップス先生－名古屋大学版ティーチングティップス－』
<http://www.cshe.nagoyau.ac.jp/tips/tips010/basics/support/papereval.html>（2018年10月8日閲覧）
- 佐渡島紆織・太田裕子（2013）『文章チュータリングの理念と実践 早稲田大学ライティングセンターでの取り組み』ひつじ書房。

- 佐藤賢輔・後藤さゆり・伊藤奈央・小林至道（2017）「学士課程学生によるライティング・ピア・チュータリングの効果－縦断的調査に基づく検討－」日本教育心理学会第59回総会発表論文集、p.549。
- 佐藤賢輔・後藤さゆり・飯田健司・小林至道（2018）「学士課程学生チューターによるライティング支援活動とその効果の測定」第24回大学教育研究フォーラム発表要旨、p.107。
- 末田真樹子・堀一成・久保山健・坂尻彰宏（2013）「職員・教員・TA協働による学習支援の取組－大阪大学附属図書館における『レポートの書き方講座』を中心に－」『大阪大学高等教育研究』第2巻、pp.55-60。
- 杉谷祐美子（2017）「第3章 初年次教育の重要性とリーディング&ライティング」全国大学生生活協同組合連合会教職員委員会監修・玉真之介編著『大学教育と読書 大学生協からの問題提起』大学教育出版、pp.43-63。
- 戸田山和久（2012）『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス。

- 上田大輔・尾崎文代・高橋努（2017）「大学図書館の機能を拡張し発展させる広島大学ライティングセンターの取り組み」『大学図書館研究』、pp.75-84。
- 上田大輔（2018）「広島大学ライティングセンターが行うライティング支援」『大学の図書館』37巻3号（No.532）、pp.32-34。
- 上岡真紀子（2008）「慶應義塾大学における利用者調査の事例」『情報の科学と技術』58巻6号、pp.278-284。
- 渡辺哲司（2010）『「書くのが苦手」をみきわめる』学術出版会。
- 渡辺哲司（2013）『大学への文章学 コミュニケーション手段としてのレポート・小論文』学術出版会。
- 山口真也・糸数日菜子（2014）「沖縄国際大学図書館でのレポートライティング支援事業の課題」『九州大学附属図書館による自律的学習支援体制の構築』に学ぶ『沖縄県図書館協会誌』第18号、pp.70-76。
- 山本和子（2003）「図書館の学習支援事例紹介－日本福祉大学付属図書館におけるレポート・論文相談窓口の取り組み－」『館灯』41、pp.23-26。

《2018 年度研修委員会報告》

2018 年度研修委員会活動報告

東地区部会研究部研修委員会

委員長 和田 貴敏（中央大学）

1. 研修委員（任期 2018 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）

委員長	和田 貴敏	（中央大学）
副委員長	岡田 将彦	（慶應義塾大学）
委員	桑垣 孝平	（早稲田大学）
	土田 大輔	（明治大学）
	吉水 拓哉	（立正大学）
	粕川 悠介	（成城大学）事務局（2017 年 4 月 1 日～2018 年 6 月 30 日）
	吉田 博貴	（成城大学）事務局（2018 年 7 月 1 日～2019 年 3 月 31 日）
オブザーバー	渡邊 幸弘	（早稲田大学）

2. 委員会活動概況

年間 8 回（4, 5, 6, 7, 9, 11, 12, 3 月）の委員会を開催した。※3 月は予定。

第 1 回（4 月）は、本委員会の役割や課題について研究部担当理事校より説明を受け、情報を共有するとともに、すでに実施概要が固まりつつあった地域研修についても説明を受けた。なお、この時点で地域研修は、研究部担当理事校の尽力により、丸善雄松堂株式会社（以下丸善）の協力を得て、「図書館員によるライティングサポート」をテーマとして北海道（北星学園大学）で実施することが内定していた。

第 2 回（5 月）以降、地域研修実施前の第 5 回（9 月）までは、主に地域研修の実施に向けて内容詳細を精査し、必要に応じて丸善担当者を委員会に招聘しながら検討を行い、10 月に地域研修を実施するに至った。詳細は、「3. 2018 年度地域研修実施概要」参照のこと。なお、第 5 回の委員会においては、次年度以降の研修会スケジュール（地域研修と首都圏開催のサイクルの見直し）や予算についても検討し、委員会としての意見のとりまとめを行った。

第 6 回（11 月）は、地域研修の振り返りに引き続き 2019 年度首都圏開催の研修会テーマの検討に入った。第 7 回（12 月）、第 8 回（3 月）の委員会においても 2019 年度研修会テーマに関する検討を行った。

3. 2018 年度地域研修

■実施概要

テーマ：「図書館職員によるライティング支援実践講座」

講 師：青山学院大学教育人間科学部教育学科 教授 杉谷 祐美子

青山学院大学アカデミックライティングセンター 助手 小林 至道

日 程：2018 年 10 月 19 日（金） 11:00～17:00

会 場：北星学園大学 第 5 会議室（C 館 2 階）

札幌市厚別区大谷地西 2-3-1

（札幌駅から地下鉄 15 分、または新千歳空港からバスで約 35 分）

参加者：30 名（22 大学）

参加役員：和田委員長、土田委員、吉水委員

※事務局として研究部担当理事校（成城大学）より 新井和之 吉田博貴

※業務委託先 丸善担当者 2 名

■開催趣旨

2016 年度に仙台で開催された第 1 回地域研修に引き続き、北海道から東海と広範囲に亘る東地区部会加盟校の参加・交流をはかり、地域活性化と図書館員のスキルアップを目的として第 2 回地域研修は、北海道で開催することとした。※地域研修と首都圏開催研修が交互開催となることは 2015 年度東地区部会役員会で承認されている。

テーマは、「図書館職員によるライティング支援実践講座」と題し、近年ライティングセンターが設置される大学が増加するなか、その機能が図書館に求められることも多くなっている現状を踏まえ、図書館員にはどのようなライティング支援が可能か、現場の経験も豊かな講師をお迎えし、講義とワークショップ等の実践形式の両面から研修していただき、参加者が一歩踏み込んだライティング支援の実現に向けた改善方法や実践に向けたヒントをつかむことを目的として開催した。

■準備・進行（タイムスケジュール）及びカリキュラム内容

- 9:30 関係者集合 講師案内、打ち合わせ
- 10:30 受付開始
- 11:00 開会 北星学園大学図書館長挨拶、事務連絡、講師紹介
- 11:10 アイスブレイク
 - 1. レポートライティング支援の現状と課題
 - 1-1. ライティング支援の必要性
 - 1-2. 図書館職員として支援にどう関与するか
 - 1-3. グループディスカッション
- 12:30 昼食（グループごと）
- 13:20 2. ライティング支援の方法

- 2-1. レポート・論文とは何か?
- 2-2. 文書診断を行う（個人ワーク、グループワーク）
- 2-3. レポート作成のプロセスを支援する
- 14:40 休憩
- 14:50 3. ライティング支援の実践
 - 3-1. ライティング支援を体験する（ロールプレイング）
 - 3-2. ライティング支援を振り返る
- 16:50 閉会 研修委員会委員長挨拶、アンケート記入、記念写真撮影
- 17:00 質疑応答、施設見学（図書館、ラーニングコモンズ）
- 18:00 解散 設営復帰、会場確認

■特記事項

- ①企画段階は、研究部担当理事校が丸善と連携し、最終的には、研修部分は丸善へ業務委託することで進めた。研修委員会は、研修内容の詳細な詰めと当日の運営を研究部担当理事校と協力して担当した。
- ②地域研修のお知らせは7月2日（月）より全加盟館メーリングリスト宛に行い、同時に申し込みフォームを使用して募集を開始し、7月31日（火）を締め切りとした。締め切り時点で参加申し込みが委員会で最低人数と設定していた20人を超えたため2次募集は行わなかった。

■地域研修の振り返り及び成果

- ①研修終了後の第6回研修委員会において、丸善から「ライティング支援研修（アンケート集計結果報告書）」が提出され受領した。アンケート結果は良好であった。特に、テーマの新鮮さや「講義」と「実践（ワークショップやロールプレイ）」のどちらかに偏ることない、それらがバランスよく配分された形式での研修であったため、参加者の高い満足感が得られたことがアンケート結果から明らかになっている。これらは、次年度の首都圏開催における企画を練る上においても参考になる結果であった。
- ②北海道・東北地区からの参加者が全体の約8割となり、地域還元や活性化の目的は達成できた。次回以降の研修会においても開催地域の大学からの参加者が多くなる開催地を検討すべきであるが、立地や大学施設・設備の制限などクリアしなければならないハードルがあることが想定される。なお、今回会場を提供していただいた北星学園大学様については、研修会場として施設・設備的に申し分ない環境を提供していただき、また、図書館やラーニングコモンズにおいて、今回のテーマに密接した活動を活発に行われている状況にあったため、参加者にとって施設見学なども充実した内容となった。
- ③今回の地域研修開催については、研究部担当理事校に大きな負担をかけることとなったため、企画段階から研修委員会に関わり、実施まで一貫した運営ができるよう研修会開催のサイクル変更などを検討する必要があるといった課題が残った。

4. 2019 年度研修会

地域研修と交互開催で首都圏開催となる次年度の研修会については、「図書館の利用率・イメージアップ（仮）」または「図書館と法律（仮）」をテーマとして11月28日（木）、29日（金）の2日間の日程により慶應義塾大学日吉キャンパスで開催する予定とし、継続検討中である。研修テーマの確定及び内容詳細は、2019年度委員会にて引き続き検討する。

5. その他（次年度以降に向けた今後の課題等）

今後の研修会について、地域開催と首都圏開催のサイクルをリセットし、2019年度と2020年度を首都圏開催とし、以降は、2021年度地域開催、2022年度首都圏開催と交互開催していくことを研修委員会として提案し、研究部運営委員会にて承認された。

また、地域研修の予算額についても、会場費や業務委託費を考慮し、定額化がのぞましいとの意見があり、100万円で定額化することを研修委員会として提案し、研究部運営委員会にて承認された。

近年、本研修会の企画運営の外部委託化や会員校の施設を利用する場合においても会場費がかかるケースが想定されることなど周辺事情も変化しつつあるため、研修会の実施方式や予算については、引き続き検討していく必要があると考えている。

以 上

《オンデマンド研修》

私大図協・東・研・2018-16
2018年6月18日

私立大学図書館協会
東地区部会
加盟大学図書館 御中

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
成城大学図書館
館長 田嶋 信雄
[公印省略]

2018年度東地区部会オンデマンド研修「雑誌コース」のご案内（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび東地区部会ではオンデマンド研修「雑誌コース」を実施することになりましたので、ご案内いたします。

つきましては、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

なお、実施要項、受講申込書、受講マニュアルは私立大学図書館協会東地区部会のホームページ（<http://www.jaspul.org/east/collegium/cat4/2018/>）に掲載しておりますので、ご参照ください。

敬具

記

1. 開講時期 2018年7月～10月の3カ月間
2. 募集定員 25名
3. 受講対象 原則として私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する専任職員
4. 申込方法 上記URLから受講申込書をダウンロードし、所属機関長（図書館長等）の推薦を添えて、郵送でお申し込みください。
5. 締め切り 2018年7月7日（土）必着
6. 問い合わせ・申込先 〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20
成城大学図書館（担当：新井・吉田）
E-mail：eastlib@seiyo.ac.jp
Tel：03-3482-3555 Fax：03-3482-7221

※2018年11月から2019年1月に「図書コース」を実施いたします。9月頃に開催のご案内をさせていただきます。

以上

2018年度 私立大学図書館協会東地区部会

オンデマンド研修「雑誌コース」実施要項

1. 研修の目的

近年、大学図書館では人事異動や業務委託の導入により、図書館業務の基本である目録作成に携わる機会が著しく減少しています。しかし、図書館をマネジメントする上で目録に関する知識は必須であることから、目録技術の普及に寄与することと、私立大学図書館に勤務する館員の育成を目的に、オンデマンドによる双方向型研修を実施します。

2. 主催、運営管理

私立大学図書館協会東地区部会

3. 実施、運営

特定非営利活動法人大学図書館支援機構（IAAL）

4. 受講内容

第1週～第4週： 雑誌業務概説

雑誌の定義と雑誌業務の概要を説明します

第5週～第8週： 総合目録データベースの仕組みと所蔵登録

NACSIS-CAT のデータベースの仕組みと、所蔵登録について説明します

第9週～第12週： 雑誌書誌登録

雑誌の書誌作成・修正の考え方を説明します

※12週（3カ月）で1期のコースとなります。

※受講内容には全体で約8時間程度のビデオ視聴と、確認テストや提出課題、ディスカッションなどが含まれます。

5. 受講方法

IAAL から発行される ID とパスワードにより指定の URL にアクセスして受講します。インターネット接続の環境があれば24時間受講が可能です。「オンデマンド研修受講マニュアル」もご参照ください。

6. 受講期間

2018年7月～10月の3カ月間

7. 募集定員

1期25名

※双方向型研修のため人数制限があります。定員を超えた場合は研究部にて選考させていただきます。

※定員に余裕がある場合は追加募集を行います。

8. 受講対象者

原則として私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する専任職員を対象とします。

9. 修了証書

本講習の修了者には修了証書が発行されます。

10. 受講料

無料

11. 申し込み方法

受講希望者は受講申込書をダウンロードのうえ、所属機関長（図書館長等）の推薦を添えて、下記まで郵送にてお申し込みください。

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 成城大学図書館
私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校（担当：新井、吉田）
申込期限 2018年7月7日（土）（必着）

12. 受講者の決定

受講者の決定については7月中旬に各所属機関長（図書館長等）と受講者に通知します。

13. 問い合わせ先

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校 成城大学図書館（担当：新井、吉田）
Tel 03-3482-3555 Fax 03-3482-7221 E-mail eastlib@seiyo.ac.jp

【注意事項】

1. 申し込み後に参加できない事情が生じた場合は、速やかに研究部担当理事校までご連絡ください。
2. オンデマンド研修内でのディスカッションやアンケートの内容は、東地区部会研究部が作成する報告書、広報資料、ホームページ等に使用する場合がありますのでご了承ください。
3. 発行される ID やパスワードは受講者本人のみが使用するものであり、各自で責任をもって管理してください。
4. ご提供いただいた個人情報は、当研修の実施に関する連絡等に利用します。取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません。（但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。）

私大図協・東・研・2018-28

2018年9月18日

私立大学図書館協会
東地区部会
加盟大学図書館 御中

私立大学図書館協会
東地区部会研究部担当理事校
成城大学図書館
館長 田嶋 信雄
[公印省略]

2018年度東地区部会オンデマンド研修「図書コース」のご案内（通知）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は私立大学図書館協会東地区部会の活動に対し格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび東地区部会ではオンデマンド研修「図書コース」を実施することになりましたので、ご案内いたします。

つきましては、貴館の関係者にご周知くださいますようお願い申し上げます。

なお、実施要項、受講申込書、受講マニュアルは私立大学図書館協会東地区部会のホームページ（<http://www.jaspul.org/east/collegium/cat4/2018/>）に掲載しておりますので、ご参照ください。

敬具

記

1. 開講時期 2018年11月～2019年1月の3カ月間
2. 募集定員 25名
3. 受講対象 原則として私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する専任職員
4. 申込方法 上記URLから受講申込書をダウンロードし、所属機関長（図書館長等）の推薦を添えて、郵送でお申し込みください。
5. 締め切り 2018年10月6日（土）必着
6. 問い合わせ・申込先 〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20
成城大学図書館（担当：新井・吉田）
E-mail : eastlib@seiyo.ac.jp
Tel : 03-3482-3555 Fax : 03-3482-7221

以上

2018年度 私立大学図書館協会東地区部会

オンデマンド研修「図書コース」実施要項

1. 研修の目的

近年、大学図書館では人事異動や業務委託の導入により、図書館業務の基本である目録作成に携わる機会が著しく減少しています。しかし、図書館をマネジメントする上で目録に関する知識は必須であることから、目録技術の普及に寄与することと、私立大学図書館に勤務する館員の育成を目的に、オンデマンドによる双方向型研修を実施します。

2. 主催、運営管理

私立大学図書館協会東地区部会

3. 実施、運営

特定非営利活動法人大学図書館支援機構（IAAL）

4. 受講内容

第1週～第4週： 目録の基礎 目録の基本的な考え方を学びます

第5週～第8週： 和図書の目録 和図書の目録の録り方を説明します

第9週～第12週： 洋図書の目録 洋図書の目録の録り方を説明します

※12週（3カ月）で1期のコースとなります。

※受講内容には全体で約7時間程度のビデオ視聴と、確認テストや提出課題、ディスカッション等が含まれます。

5. 受講方法

IAAL から発行される ID とパスワードにより指定の URL にアクセスして受講します。インターネット接続の環境があれば24時間受講が可能です。「オンデマンド研修受講マニュアル」もご参照ください。

6. 受講期間

2018年11月～2019年1月の3カ月間

7. 募集定員

1期25名

※双方向型研修のため人数制限があります。定員を超えた場合は研究部にて選考させていただきます。

※定員に余裕がある場合は追加募集を行います。

8. 受講対象者

原則として私立大学図書館協会東地区部会加盟大学の図書館に勤務する専任職員を対象とします。

9. 修了証書

本講習の修了者には修了証書が発行されます。

10. 受講料

無料

11. 申し込み方法

受講希望者は受講申込書をダウンロードのうえ、所属機関長（図書館長等）の推薦を添えて、下記まで郵送にてお申し込みください。

〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20 成城大学図書館

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校（担当：新井、吉田）

申込期限 2018年10月6日（土）（必着）

12. 受講者の決定

受講者の決定については10月中旬に各所属機関長（図書館長等）と受講者に通知します。

13. 問い合わせ先

私立大学図書館協会東地区部会研究部担当理事校 成城大学図書館（担当：新井、吉田）

Tel 03-3482-3555 Fax 03-3482-7221 E-mail eastlib@seiyo.ac.jp

【注意事項】

1. 申し込み後に参加できない事情が生じた場合は、速やかに研究部担当理事校までご連絡ください。
2. オンデマンド研修内でのディスカッションやアンケートの内容は、東地区部会研究部が作成する報告書、広報資料、ホームページ等に使用する場合がありますのでご了承ください。
3. 発行される ID やパスワードは受講者本人のみが使用するものであり、各自で責任をもって管理してください。
4. ご提供いただいた個人情報は、当研修の実施に関する連絡等に利用します。取得した個人情報は、上記の目的以外で利用することはありません。（但し、法令等により提供を求められた場合を除きます。）

**2018年度 私立大学図書館協会東地区部会 研究部
決算報告
(2018年4月1日～2019年3月31日)**

収入の部

(単位:円)

科目	予算額(A)	執行額(B)	差異(A-B)	備考
部会交付金	1,868,882	1,868,882	0	2018年度研究部事業予算に対し、前年度繰越金を差し引いた額
研究会参加費収入	0	0	0	2018年度は意見交換会の開催なし
研修会参加費収入	0	0	0	2018年度は意見交換会の開催なし
雑収入	500	3,008	△ 2,508	預金利息、研修分科会からの戻入
小計	1,869,382	1,871,890	△ 2,508	
前年度繰越金	1,821,618	1,821,618	0	
合計	3,691,000	3,693,508	△ 2,508	

支出の部

科目	予算額(A)	執行額(B)	差異(A-B)	備考
研究講演会(部会総会)開催費	130,000	80,040	49,960	講師謝礼、交通費等
研究会(報告大会)開催費	0	0	0	隔年開催、次回は2019年度
研究会(交流会)開催費	120,000	83,207	36,793	講師謝礼、交通費等
研修会(首都圏)開催費	0	0	0	隔年開催、次回は2019年度
研修会(地域研修)開催費	700,000	698,934	1,066	Aブロックでの開催費、交通費、他
オンデマンド研修費	430,000	427,593	2,407	システム・ネットワーク費、 図書コース・雑誌コース運営費
運営委員会費	100,000	98,280	1,720	年8回開催
運営委員会・分科会代表者 合同会議開催費	10,000	5,674	4,326	年2回(5月・11月) 意見交換会の開催なし
分科会助成金	330,000	190,000	140,000	
内訳				
基本助成	180,000	90,000	90,000	2研究分科会と研修分科会が活動 @30,000円×3分科会
割増助成会員	150,000	100,000	50,000	2018年度会員数 @5,000円×20名
特別助成金	1,300,000	655,000	645,000	
内訳				
研究分科会支援金	800,000	133,000	667,000	和漢、レファレンスに支給
研修分科会支援金	500,000	522,000	△ 22,000	※参加人数の関係で予算が不足したため
研修委員会費	100,000	88,950	11,050	年8回開催
研究部活動費	50,000	0	50,000	研究部活動 (運営委員会・研修委員会含む)
印刷費	250,000	226,800	23,200	
内訳				
研究部報告書	200,000	183,600	16,400	500部
研究部用封筒印刷代他	50,000	43,200	6,800	研修案内チラシ(両面) 500部
通信費	20,000	30,280	△ 10,280	※オンデマンド研修関係の郵送物が多数発生 したため
運営事務費	50,000	10,414	39,586	振込手数料他
小計	3,590,000	2,595,172	994,828	
予備費	101,000	0	101,000	
合計	3,691,000	2,595,172	1,095,828	
東地区部会への戻入額	0	1,098,336	△ 1,098,336	
総計	3,691,000	3,693,508	△ 2,508	

2018年度私立大学図書館協会東地区部会研究部決算報告は以上のとおりです。

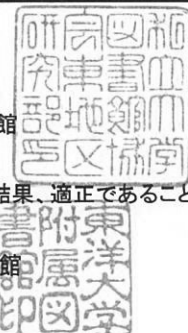
2019年3月31日

東地区部会研究部担当理事校 成城大学図書館

2018年度に係る決算報告書及び付属書類について、その証憑書類及び帳簿を監査しました結果、適正であることを認めます。

2019年4月1日

東地区部会監事校 東洋大学附属図書館



2019 年度 私立大学図書館協会東地区部会研究部
活動計画（案）
（2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日）

1. 研究部活動方針

- （1）研究活動 （2）研修活動

2. 活動計画

（1）運営委員会

研究部の活動計画、予算・決算、研究部の運営その他について協議し、活性化に向けた活動を行う。年 8 回程度開催。

（2）運営委員・研究分科会代表者合同会議

研究分科会の活動計画、運営その他について協議する。

2019 年 5 月、11 月下旬～12 月上旬の年 2 回開催。

（3）研究講演会及び研究会

- 1) 「研究講演会」の開催。

2019 年 6 月部会総会・館長会終了後に開催。於：作新学院大学

- 2) 「研究分科会報告大会」の開催。

2019 年 11 月下旬～12 月上旬に開催。会場未定。

（4）研修委員会

研修会の企画を立案し、実施する。年 8 回程度開催。

（5）研修会（首都圏）

研修委員会による研修会。

2019 年 11 月 28～29 日（木～金）に開催。於：慶應義塾大学日吉キャンパス

（6）研究分科会

2 研究分科会が、各研究主題に沿って月例研究会や夏期研究合宿等の活動を実施する。

- ① 和漢古典籍研究分科会 ② レファレンス研究分科会

休会：分類研究分科会、西洋古版本研究分科会、

パブリック・サービス研究分科会（いずれも 2 年目）

（7）研修分科会

初任者を対象に単年度の研修活動を実施する。

（8）オンデマンド研修

双方向型のラーニングデザインによるインタラクティブな研修を実施する。

- 1) 「雑誌コース」 2019 年 7 月下旬～10 月下旬に開講。

- 2) 「図書コース」 2019 年 11 月初旬～2020 年 1 月下旬に開講。

（9）研究部報告書

2018 年度の研究部活動記録を 2019 年 6 月に発行する。

以上

2019年度 私立大学図書館協会東地区部会 研究部
予算(案)
(2019年4月1日～2020年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	19年度予算(A)	18年度予算(B)	差異(A-B)	備考
部会交付金	3,964,500	1,868,882	2,095,618	2016年度より支出に応じた交付
研究会(報告大会)参加費収入	0	0	0	2019年度は意見交換会の開催なし
研修会参加費収入	25,000	0	25,000	意見交換会参加費:@1,000円×25名
雑収入	500	500	0	
小計	3,990,000	1,869,382	2,120,618	
前年度繰越金	0	1,821,618	△ 1,821,618	
合計	3,990,000	3,691,000	299,000	

支出の部

科目	19年度予算(A)	18年度予算(B)	差異(A-B)	備考
研究講演会(部会総会)開催費	100,000	130,000	△ 30,000	講師謝礼、交通費等(1名分)
研究会(報告大会)開催費	150,000	0	150,000	資料送付代、飲み物代他
研究会(交流会)開催費	0	120,000	△ 120,000	隔年開催、次回は2020年度の予定
研修会(首都圏)開催費	800,000	0	800,000	研修会・意見交換会開催費他
研修会(地域研修)開催費	0	700,000	△ 700,000	次回は2021年度の予定
オンデマンド研修費	491,000	430,000	61,000	システム・ネットワーク費、研修運営費
運営委員会費	100,000	100,000	0	
運営委員会・分科会代表者合同会議開催費	10,000	10,000	0	年2回(5月・11月) 意見交換会の開催なし
分科会助成金	330,000	330,000	0	
内訳				
基本助成	180,000	180,000	0	休会中を含む5研究分科会と 研修分科会@30,000円×6分科会
割増助成会員	150,000	150,000	0	2019年度会員予定数 @5,000円×30名
特別助成金	1,384,000	1,300,000	84,000	
内訳				
研究分科会支援金	800,000	800,000	0	
研修分科会支援金	584,000	500,000	84,000	20名分(募集は30名)
研修委員会費	100,000	100,000	0	
研究部活動費	50,000	50,000	0	研究部活動 (運営委員会・研修委員会含む)
印刷費	300,000	250,000	50,000	
内訳				
研究部報告書	200,000	200,000	0	500部
研究部用封筒印刷代他	100,000	50,000	50,000	封筒、チラシ作成他(1年目)
通信費	25,000	20,000	5,000	
運営事務費	50,000	50,000	0	振込手数料他
小計	3,890,000	3,590,000	300,000	
予備費	100,000	101,000	△ 1,000	
合計	3,990,000	3,691,000	299,000	
東地区部会への戻入額	0	0	0	
総計	3,990,000	3,691,000	299,000	

《関係規程》

私立大学図書館協会東地区部会研究部細則

(昭和 29 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 34 年 5 月 8 日 改訂)

(昭和 34 年 10 月 14 日 改訂)

(昭和 44 年 2 月 18 日 改訂)

(昭和 63 年 6 月 28 日 改訂)

(平成 7 年 8 月 2 日 改訂)

(2000 年 6 月 9 日 改訂)

(2004 年 6 月 18 日 改訂)

(2017 年 6 月 9 日 改訂)

第 1 条 この細則は、私立大学図書館協会会則（以下「会則」という。）第 28 条第 1 項第 3 号、第 33 条に基づいて、私立大学図書館協会東地区部会（以下「東地区部会」という。）に研究部を設置し、事務所を東地区部会研究部担当理事校（以下「研究部担当理事校」という。）に置くことを定める。

第 2 条 研究部は、会則第 33 条の目的達成のために次の事業を行う。

- ① 研究会の開催
- ② 研究分科会の育成
- ③ 報告書の発行
- ④ 西地区部会研究会との連絡、情報の交換
- ⑤ その他研究部の目的達成に必要な事項

第 3 条 研究会は、研究発表及び研究部の事業についての報告その他を行う。

- 2 会場は、東地区加盟校が輪番で担当する。

第 4 条 研究分科会は、当該研究分科会ごとに適宜開催し、その研究の進行状況、成果その他を研究部担当理事及び研究会に報告するものとする。

- 2 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 3 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。

第 5 条 報告書は、第 2 条の各事業の状況及び研究成果を発表するもので、研究部担当理事が編集の責任に当たる。

第 6 条 研究部には、次の役員を置く。

- ① 研究部担当理事 1 名

② 運営委員 8名

(東地区部会役員校3名 東地区加盟校5名)

第7条 研究部担当理事には、研究部担当理事校の代表者が当たり、研究部を代表し、かつこれを統轄する。

第8条 運営委員は、隔年4月東地区加盟館から研究部担当理事が推薦し、東地区部会役員会の承認を得た上、研究部担当理事をたすけて研究部の運営に当たる。

第9条 研究部には、その運営を円滑ならしめるため、運営委員会を置く。

第10条 運営委員会は、研究部担当理事が招集し、次の事項を行う。ただし、必要に応じて各研究分科会代表者あるいは当該研究会会場校代表者の出席を求めることができる。

- ① 研究部の事業計画
- ② 研究会の運営に関する事項
- ③ 各研究分科会間の連絡、情報の交換
- ④ 研究部報告の編集、発行
- ⑤ その他研究部の運営に関する事項

第11条 研究部の経費は、東地区部会の助成金及びその他を充てる。ただし、必要に応じて実費を徴収することができる。

第12条 研究部の運営について必要な事項は、別に定めることができる。

第13条 本細則の改廃は、東地区部会総会の承認を要する。

附 則

- 1 本細則は昭和29年4月1日よりこれを実施する。
- 2 本改訂細則は昭和34年5月8日よりこれを実施する。
- 3 本改訂細則は昭和35年10月14日よりこれを実施する。
- 4 本改訂細則は昭和44年2月18日よりこれを実施する。
- 5 本改訂細則は昭和63年6月28日よりこれを実施する。
- 6 本改訂細則は平成8年4月1日よりこれを実施する。
- 7 本改訂細則は2001年4月1日よりこれを実施する。
- 8 本改訂細則は2004年6月18日よりこれを実施する。
- 9 本改訂細則は2017年4月1日よりこれを実施する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研究分科会申し合わせ

(昭和 48 年 4 月 1 日 制定)

(昭和 55 年 6 月 18 日 改訂)

(平成 7 年 9 月 25 日 改訂)

(2002 年 4 月 1 日 改訂)

(2003 年 4 月 1 日 改訂)

(2004 年 4 月 1 日 改訂)

(2005 年 4 月 1 日 改訂)

(2015 年 4 月 1 日 改訂)

第 1 条 この申し合わせは、私立大学図書館協会東地区部会研究部に研究分科会を置くことを定める。

第 2 条 本研究分科会は、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則の当該条項に則って活動するものとする。

第 3 条 各研究分科会は、以下の要件を備え、かつ、複数の大学に所属する正会員 3 名以上をもって構成されるものとし、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得なければならない。ただし、やむを得ぬ事情により会期中に正会員数が 3 名未満となった場合、研究部は活動の継続を認めることがある。

- ① 当該年度の研究テーマ
- ② 当該年度の研究回数
- ③ 当該テーマの研究に必要とされる条件
- ④ 会費徴収額

第 4 条 各研究分科会は代表者 1 名を置くものとする。

第 5 条 各研究分科会の活動期間は 2 年とし、更新することができる。更新にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。

第 6 条 新規に研究分科会を申請するにあたっては、会員更新担当理事に対し、第 3 条の要件を更新年度の前年 12 月までに示さなければならない。

- 第7条 会員更新担当理事は、研究分科会更新前年度の所定の日までに、加盟館代表者に、第3条各号の事項を通知し、加盟館における参加者選定の基準を示さなければならない。
- 第8条 加盟館代表者は、更新前年度の所定の日までに、各研究分科会の参加者を決定し、会員更新担当理事に通知するものとする。
- 2 会員更新担当理事は、この通知に基づき、当該研究分科会代表者に諮ったうえ、各研究分科会の会員として登録する。
- 第9条 各研究分科会の活動期間中に、途中入退会者があった場合、研究分科会代表者は書面をもって、月例担当理事に通知するものとする。
- 第10条 各研究分科会は、研究部より助成金を受けることができる。
- 2 各研究分科会は、研究部より特別助成金を受けることができる。但し、助成にあたっては、研究部運営委員会の議を経て担当理事の承認を得なければならない。
- 第11条 研究分科会代表者は、当該研究分科会を主宰するとともに、毎月25日までに翌月の開催計画を、月例担当理事に連絡するものとする。
- 第12条 研究分科会代表者は、毎年研究部担当理事に、研究分科会の活動状況及び会計報告をしなければならない。
- 第13条 研究分科会代表者は、研究部担当理事の求めに応じて、研究部運営委員会に出席することができる。ただし、議決権を持つことができない。
- 第14条 各研究分科会は、その研究の成果を研究部の開催する研究会において原則として発表しなければならない。
- 第15条 研究分科会代表者は、毎年2回（5月・11月）開催される運営委員会・代表者合同会議に出席しなければならない。但し、代表者が出席できない場合は代理による出席を認める。代理も不可能である時は、特に研究部が認めた場合この限りではない。
- 第16条 本申し合わせの改廃は、研究部運営委員会の議を経て研究部担当理事の承認を得て行うものとする。

付 則

- 1 本申し合わせは、2004 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 本申し合わせは、2005 年 4 月 1 日から施行する。
- 3 本申し合わせは、2015 年 4 月 1 日から施行する。

私立大学図書館協会東地区部会研究部研修委員会規則

(昭和 56 年 4 月 1 日制定)

(平成 2 年 4 月 1 日改正)

(平成 8 年 3 月 28 日改正)

(2016 年 12 月 9 日改正)

第 1 条 この規則は、私立大学図書館協会東地区部会研究部（以下「研究部」という。）に設置する研修委員会（以下「委員会」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

第 2 条 委員会は、東地区加盟館館員の資質の向上を図るため、次の活動を行う。

- ① 研修会等に関する情報の収集、提供
- ② 研修会等の企画、実施
- ③ 関連する機関、団体との連絡・協力
- ④ その他目的達成のために必要な活動

第 3 条 委員会は、6 名以上 8 名以内の委員をもって構成し、うち 1 名もしくは 2 名は研究部担当理事校（以下「担当理事校」という。）から選出する。

第 4 条 委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、担当理事校から選出された委員の任期は、担当理事校の担当期間とする。

第 5 条 委員に欠員が生じた場合はこれを補充するものとし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

第 6 条 委員会に、委員長 1 名及び副委員長 1 名を置く。

- 2 委員長は、委員会を招集し、議事を進行する。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

第 7 条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。

- 2 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 3 委員会は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、意見を聴くことができる。

第8条 委員長及び委員は、東地区加盟館から研究部担当理事（以下「担当理事」という。）が推薦し、東地区部会役員会に諮り、これを委嘱する。

2 第6条に定める副委員長は、委員長が指名する委員をもって充てる。

第9条 委員長は、委員会の活動について、担当理事に対し、少なくとも年2回以上報告しなければならない。

第10条 委員会の事務経費については、私立大学図書館協会東地区部会研究部細則第11条を準用する。ただし、研修会等を実施する際の費用は、必要に応じて実費を徴収することができる。

第11条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会申し合わせとして別に定めることができる。

第12条 この規則の改廃については、研究部運営委員会の承認を必要とする。

附 則

1 この規則は平成8年4月1日より施行する。

2 この改正規則は2017年4月1日より施行する。

